

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2023年6月28日
【事業年度】	第78期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
【会社名】	サンメッセ株式会社
【英訳名】	Sun Messe Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長社長執行役員 田中 尚一郎
【本店の所在の場所】	岐阜県大垣市久瀬川町7丁目5番地の1
【電話番号】	(0584)81-9111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長兼経理部長 千代 耕司
【最寄りの連絡場所】	岐阜県大垣市久瀬川町7丁目5番地の1
【電話番号】	(0584)81-9111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長兼経理部長 千代 耕司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
決算年月	2019年 3 月	2020年 3 月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月
売上高(千円)	15,279,264	16,194,033	14,928,567	16,603,865	17,148,448
経常利益(千円)	249,811	297,618	386,929	606,155	397,429
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	173,026	183,115	304,854	264,720	327,883
包括利益(千円)	201,194	97,309	879,512	228,119	384,630
純資産額(千円)	9,815,820	9,819,214	10,608,711	10,727,252	11,002,199
総資産額(千円)	18,582,814	18,786,690	19,107,453	19,288,551	19,551,112
1株当たり純資産額(円)	633.39	633.62	684.57	686.86	704.45
1株当たり当期純利益(円)	10.63	11.82	19.67	17.08	21.16
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率(%)	52.5	51.9	55.1	55.2	55.8
自己資本利益率(%)	1.7	1.9	3.0	2.5	3.0
株価収益率(倍)	38.29	30.12	19.62	20.90	16.87
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	960,811	974,672	485,640	944,153	1,166,419
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△457,642	△721,094	△749,929	△1,594,640	△465,621
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△986,499	△133,892	△92,020	△292,560	△132,440
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	2,384,311	2,510,947	2,152,113	1,208,676	1,794,630
従業員数(人)	715	718	707	701	690
[外、平均臨時雇用人員]	[205]	[214]	[240]	[254]	[236]

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第77期の期首から適用しており、第77期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
決算年月	2019年 3 月	2020年 3 月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月
売上高(千円)	14,324,641	15,336,671	14,151,928	15,596,425	15,844,415
経常利益(千円)	155,067	250,515	323,285	489,674	280,644
当期純利益(千円)	123,865	158,516	269,674	192,181	245,694
資本金(千円)	1,236,114	1,236,114	1,236,114	1,236,114	1,236,114
発行済株式総数(株)	17,825,050	17,825,050	17,825,050	17,825,050	17,825,050
純資産額(千円)	9,700,468	9,525,282	10,258,850	10,277,498	10,433,284
総資産額(千円)	18,080,763	18,319,708	18,497,569	18,572,301	18,812,825
1株当たり純資産額(円)	625.94	614.66	661.99	663.20	673.25
1株当たり配当額(円) (うち1株当たり中間配当額)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	7.00 (3.00)	7.00 (3.00)	7.00 (3.00)
1株当たり当期純利益(円)	7.61	10.23	17.40	12.40	15.85
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率(%)	53.7	52.0	55.5	55.3	55.5
自己資本利益率(%)	1.2	1.6	2.7	1.9	2.4
株価収益率(倍)	53.48	34.80	22.18	28.79	22.52
配当性向(%)	78.8	58.7	40.2	56.5	44.2
従業員数(人) [外、平均臨時雇用人員]	698 [196]	701 [207]	687 [234]	680 [235]	670 [228]
株主総利回り(%) (比較指標：配当込みTOPIX)(%)	92.2 (95.0)	82.1 (85.9)	90.4 (122.1)	85.5 (124.6)	87.1 (131.8)
最高株価(円)	470	445	450	403	391
最低株価(円)	334	347	338	348	350

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第77期の期首から適用しており、第77期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	事項
1935年 5 月	田中印刷所を岐阜県大垣市寺内町にて創業
1946年 9 月	大垣土地興行株式会社を設立
1947年 6 月	合資会社田中印刷所を設立
1953年10月	大垣土地興行株式会社が合資会社田中印刷所を合併し、田中印刷興行株式会社に商号変更
1956年 7 月	本社工場(東工場)を建設
1966年10月	田中印刷興業株式会社に商号変更
1968年 7 月	名古屋支店を開設
1969年 9 月	田中工業株式会社に商号変更、田中印刷興業株式会社を設立し販売部門を分離
1969年12月	田中工業株式会社西工場(現 中工場)を建設
1971年11月	田中工業株式会社西工場(現 中工場)に両面 8 色オフセット輪転印刷機を設置
1975年 8 月	田中工業株式会社本社機構を岐阜県大垣市荒川町に移転
1980年 1 月	田中印刷興業株式会社岐阜支店を開設
1981年 9 月	田中工業株式会社西工場(現 中工場)に電算写植機を設置
1983年 5 月	田中工業株式会社西工場を建設
1984年10月	田中工業株式会社本社工場(現 中工場)にトータルスキャナシステムを設置
1985年 9 月	田中印刷興業株式会社東京支店を開設
1989年 2 月	田中工業株式会社本社工場を建設、本社機構を岐阜県大垣市久瀬川町に移転
1989年 4 月	田中印刷興業株式会社大阪支店を開設、日本イベント企画株式会社(現 連結子会社)を設立
1990年 4 月	存続会社田中工業株式会社が田中印刷興業株式会社、株式会社日劇不動産、株式会社スイト会館を合併し、サンメッセ株式会社に商号変更
1994年11月	サンメッセ T O K Y O ビルを建設、東京支店を東京都江東区東陽 3 丁目に移転
1995年 9 月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年11月	サンメッセ情報館を、高度情報化基地「ソフトピアジャパン」に建設
1998年 7 月	名古屋支店を移転
1999年 9 月	本社工場、中工場が I S O 9 0 0 2 (現 I S O 9 0 0 1 2 0 0 0 年版)を認証取得(注)
2000年 3 月	東工場、西工場が I S O 9 0 0 2 (現 I S O 9 0 0 1 2 0 0 0 年版)を認証取得(注)
2001年 9 月	本社工場、中工場、東工場、西工場が I S O 1 4 0 0 1 を認証取得
2002年 7 月	愛岐支店(現 愛岐営業所)を開設
2003年 9 月	岡崎支店(岡崎営業所)を開設
2003年11月	赤坂支店(赤坂営業所)を開設
2003年12月	「プライバシーマーク」取得
2004年 8 月	東工場を本社工場等へ移転統合
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年10月	三重支店(現 三重営業所)を開設
2006年 7 月	滋賀支店(現 滋賀営業所)を開設
2010年 4 月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q (現 東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード))に上場
2011年 4 月	赤坂営業所を東京支店に移転統合
2012年 9 月	Sun Messe (Thailand) Co., Ltd. (現 連結子会社)を設立
2013年 7 月	東京証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)に上場
2017年12月	本社第五工場が I S O / I E C 2 7 0 0 1 (I S M S) を認証取得
2018年 5 月	新宿支店を開設
2019年 9 月	I S O 9 0 0 1 の認証を再取得
2020年 4 月	東京本社を設置し、岐阜(岐阜県大垣市)との二本社制実施
2021年 3 月	岡崎営業所を名古屋支店に移転統合
2022年 4 月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより J A S D A Q (スタンダード)からスタンダード市場へ移行

(注)2011年 4 月に登録取下げをしておりますが、2019年 9 月に認証を再取得しております。

3 【事業の内容】

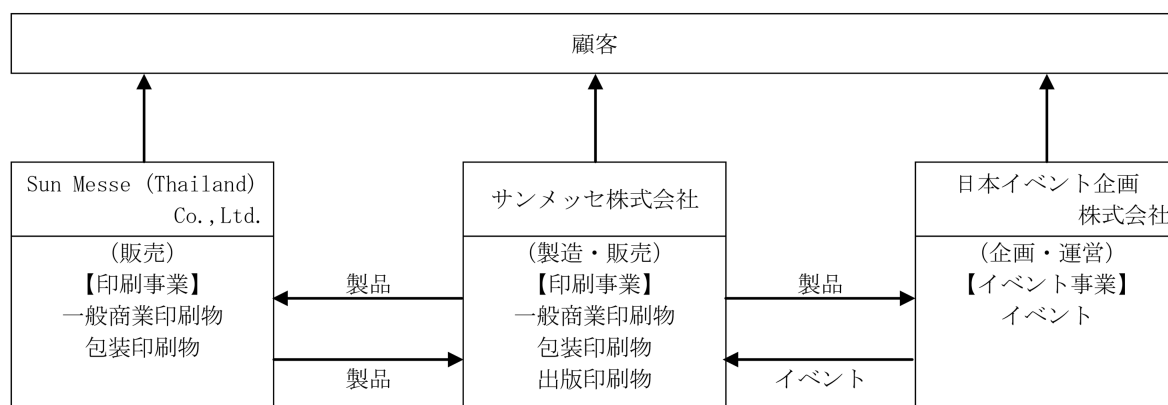
当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社及び連結子会社2社により構成されており、企画、デザイン、製版、印刷、製本及びこれらに関連する付帯事業を中心とした印刷事業並びにイベント事業を主たる事業の内容としております。

当社グループの事業に係る位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであり、印刷事業については当社及びSun Messe(Thailand)Co.,Ltd.が、イベント事業については日本イベント企画株式会社が営んでおります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

区分		主要品目及び事業内容
印刷事業	一般商業印刷物	会社案内、入社案内、入学案内、社内報、統合報告書、CSRレポート、各種コーポレート・ツール、新聞、製品カタログ、ポスター、カレンダー、ダイレクトメール、折込広告、パンフレット、証券、各種ビジネスフォーム、伝票、シール、ステッカー、ノベルティ、図書カード、プリペイドカード、CD-ROM・DVD-ROM各種タイトル、インターネットのホームページ、デジタルアーカイブ、DPS(データプリントサービス)、POD(プリントオンデマンド)
	包装印刷物	パッケージ、包装紙、ショッピングバッグ、宅配袋、ダンボールケース
	出版印刷物	取扱説明書、社史、年史、記念誌、月刊誌、行政広報、一般書籍
イベント事業		各種イベントの企画、運営

〔事業系統図〕

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有(被所有)割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
日本イベント企画株式会社	岐阜県岐阜市	50,000千円	イベント事業	100.0	役員の兼任4名 印刷物等の販売・イベント等の委託
Sun Messe(Thailand)Co.,Ltd.	タイ王国バンコク	4,000千タイバーツ	印刷事業	72.6	役員の兼任1名 印刷物等の販売・製造

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
 2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
 3. 特定子会社に該当する会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(2023年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
印刷事業	678 [228]
イベント事業	12 [8]
合計	690 [236]

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

(2023年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
670 [228]	42.5	20.82	5,246,097

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 当社は印刷事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員数は記載しておりません。

(3) 労働組合の状況

当社労働組合はサンメッセ労働組合と称し、1966年11月3日に結成され、「全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟(UAゼンセン)」に加盟しており、2023年3月31日現在、組合員数は550人であります。

労使間の問題は経営協議会を通じて円満な解決を図っており、特記すべき事項はありません。

なお、連結子会社である日本イベント企画株式会社とSun Messe(Thailand)Co.,Ltd.には、労働組合はありません。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度				
管理職に占める 女性労働者 の割合(%) (注1)	男性労働者の 育児休業 取得率(%) (注2)	労働者の男女の 賃金の差異(注1)		
		全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
6.8	10.0	49.7	66.4	57.6

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「革新」「法令順守」「環境」の3つを経営の柱とし、常にお客様を第一に考え、人・物・情報を集積・発信し、印刷を核に持続的に発展し、社会に貢献することを経営理念として掲げ、さらに以下の5つの経営基本方針によって当社が目指すべき姿を明確にしております。

① 積極経営

変化に迅速に対応できる企業を目指すため、俊敏な判断力と行動力で対応するとともに前向きな投資には積極的に取り組んでまいります。

② イノベーション経営

柔軟で多面的な広い視野を持ち、継続的に変革・革新を続けます。

③ コンプライアンス経営

法令、規律を順守し、社会的信用のある企業経営を堅持します。

④ 環境経営

ISO14001、FSC認証取得企業として、環境保全に積極的に取り組んでまいります。

⑤ 人間尊重企業

自由闊達の社風を尊重し、社員の主体性、創造性、チャレンジ精神を大切にします。

(2) 目標とする経営指標

当社は、生産性の向上と経費削減を推進することにより営業利益率を高め、自己資本当期純利益率（ROE）を向上することを目標とし、企業価値の増大に努めていく所存であります。

(3) 経営環境及び対処すべき課題

今後の経済見通しにつきましては、中国経済の再開とサプライチェーンの回復、ウクライナ情勢による食物・エネルギー市場の混乱の後退により世界の景気は回復傾向にあるものの、インフレ率の高止まりや金融引き締め継続など金融システムの不安定性が世界経済に影響するなど、先行きは依然として不透明な事業環境が続くものと思われます。

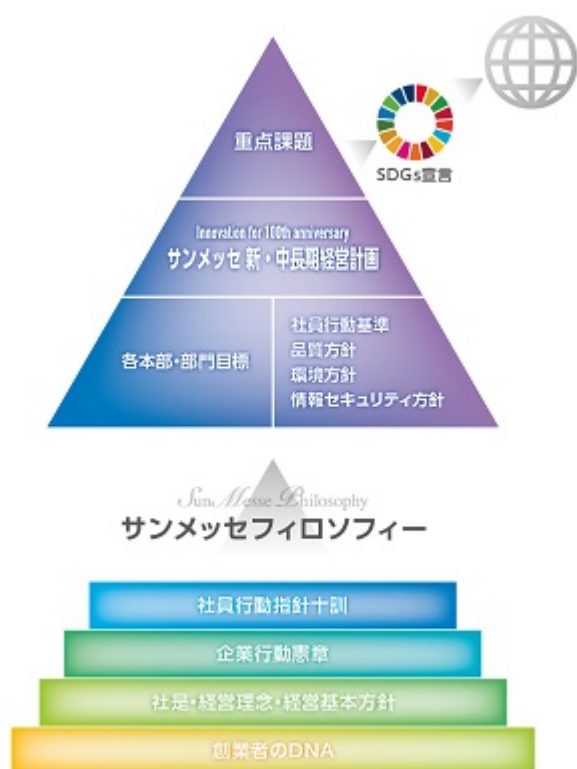
当社グループとしては、2025年に向けた90周年スローガン「Challenge for Change 2025 ～変革への挑戦～」のフェーズ2となるメインテーマとして前年度より「One Sun Messe」を掲げ、更なる事業成長と企業価値向上を実現できるよう努めております。なお、今年度の基本戦略のテーマを『変わる、変える。』として、稼ぐ会社になるための具体的な施策を推進してまいります。また、地球環境並びに社会の持続的発展と、グループ全体の持続的成長を両立していくためのサステナビリティ経営につきましても、企業として具体的な取り組みを継続して推し進めてまいります。

① 企業理念及び、サンメッセフィロソフィー

当社は「革新・法令順守・環境」の3つを経営の柱とし、常にお客様を第一に考え、人・物・情報を集積・発信し、印刷を核に、持続的に発展し、社会に貢献します。」を経営理念に掲げています。また、100周年（2035年）のありたい姿に向け、「サンメッセらしさ」を定義した「サンメッセフィロソフィー」を2020年に策定し、その浸透を図っています。

これらを当社のDNAとし、中長期経営アクションプランの推進に向け、お客様にとって価値あるサービスの提供を追求し、地球環境に配慮した経営を推進し社会に貢献するとともに、業績の維持・拡大を図り一層の企業価値向上を目指しています。

100周年（2035年）のありたい姿



②当社を取り巻く環境

Society5.0(*1)というビジョンのもと、デジタル庁の発足により国の施策としてのデジタル化が強力に推進され、SDGsやサステナビリティに対する意識が高まっています。

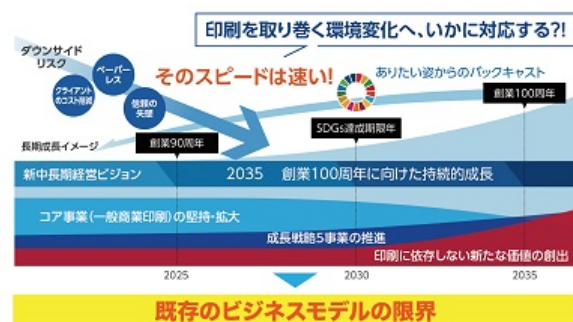
さらには感染症拡大によるリモートワークの急激な普及などによって、ペーパーレス化が予想以上の速さで進んでおり、印刷業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、昨今の物価高騰により、印刷用紙代や電気代、運送費などをはじめとするコスト高が大きく利益に影響を及ぼしています。

このような事業環境において、お客様の需要にも目らかな変化が生じており、商業印刷のみに依存しない、新たな提供価値の創出に向けた具体的なアクションを加速していく必要があります。

(*1) 内閣府の「第5期科学技術基本計画」において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された概念。



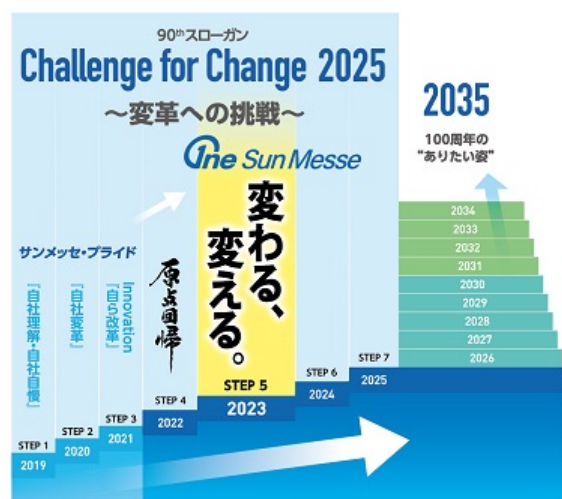
当社や印刷業界を取り巻く環境



③Innovation for 100th anniversary サンメッセ 新・中長期経営のアクションプラン

急激な環境変化に対応すべく、当社は、2019年度からInnovation for 100th anniversary サンメッセ 新・中長期経営のアクションプランを達成すべく、2035年100周年の“ありたい姿”を追求し、その中期的位置づけである2025年に向けたスローガン「Challenge for Change 2025 ～変革への挑戦～」を推進し、夢ある企業への創造に向けたチャレンジを行っております。

「One Sun Messe」をキーワードに取り組みを進め、2023年度は「変わる、変える。」をテーマに、これまでの考え方や手法を見直し、新たなビジネスの創造や仕組みの変革に挑戦する1年と位置づけています。



「Challenge for Change 2025」では当社の強みである「社内一貫生産による一社責任体制」を最大限活かし、「守る」、「攻める」、「挑戦する」という3つの重点基本戦略を推し進めています。

社会変化の加速化が進み、ペーパーレス化の傾向は止まらぬ中、デジタル転換への進展と業務のオートメーション化はより進化しています。

3つの基本戦略



当社は総合印刷業でありながらも、「情報加工業」である強みを活かすことで業務全般のデジタル・トランスフォーメーション（DX）にも対応し、コアである商業印刷事業を堅持しながらも成長事業への戦略的重点投資を図り、事業ポートフォリオの変革に挑戦しています。

目指す事業ポートフォリオのイメージ



④基本方針と2023年度の重点取り組み事項

守る：コアである商業印刷事業の堅持・伸長を行い、新規開拓・深耕拡大を図り、受注体質からの脱却を図るべく収益基盤の向上に努めています。

攻める：より専門的なプロ集団の組織力を強化し、成長戦略に掲げる情報セキュリティ事業（IPS(*2)事業）、パッケージ事業、情報コミュニケーション事業、BPO(*3)事業への戦略的重点的かつ積極的な投資を図り、高付加価値、高収益ビジネスモデルへの転換を図ります。

挑戦する：印刷に偏らないお客様の課題解決をサポートするため、様々な新しいビジネスの創造に取り組んでいます。コンテンツ制作力を活かしたショッピングセンター全体の価値創造の施策を提案する事業や、お客様の印刷周辺業務をプロの視点で最適化し、お客様業務の負担低減とパフォーマンス向上を実現する事業などにも積極的に取り組んでいます。



(*2) Information Processing Service

(*3) Business Process Outsourcing 企業活動における業務プロセスを専門業者に委託すること

2023年度は、基本戦略である「守る」「挑戦する」にフォーカスし、「守」印刷、「脱」印刷の2つを重点的に取り組みます。

基本戦略の「守る」「挑戦する」 における具体イメージ



●「守」印刷

コアである商業印刷事業を堅持するため、専用システムをフル活用してあらゆる業務を数値化・オープン化することで、経営判断ができる仕組みを構築します。また、作業効率を見直し、製造部門の潜在力を最大限活用することで、利益体質の強化を図ります。

●「脱」印刷

社内外におけるDX戦略を推進していくための組織として、2023年4月にDX推進室を発足しました。オープン化されたデータを活用した全社的なデジタル変革を推進していくとともに、デジタルを活用したソリューション提案を活発化させ社内外への改革を目指します。

本施策により当社の収益モデル改善や新たなビジネスモデルの創出を実現し、「稼ぐ会社」へ変革することで、株主の皆様をはじめとするステークホルダーへの還元ができるよう、取り組みを進めてまいります。

⑤サステナビリティ経営の推進

当社は、岐阜県下の上場企業で真っ先にSDGs宣言を発し、17のゴールのうち7つを貢献すべき課題として特定。本業を通じたSDGs視点を強く意識し、SDGsを経営実装すべく独自性高い推進を図っています。

その軸となるのが、サンメッセ社会価値共創事業モデル「SSIG (Sun Messe Social Impact Gifu)」です。当社が運営するSDGs共創プラットフォーム「Re:touch (リ：タッチ)」を中心に、文化、教育、リジェネレーション（再生）、環境、DXの5つのフィールドで、産官学やNPO/NGOなど数多くのパートナーシップの創出を実現し、岐阜県内における独自のポジションの構築に努めています。



喫緊の課題である気候変動対策については、2022年6月に当社としてのカーボンニュートラル宣言を公表。2050年カーボンニュートラルを実現すべく、ロードマップや具体的な戦略を策定中です。

CDP(*4)への自主回答、TCFD(*5)提言、経済産業省が推進するGXリーグ(*6)にも参加し、脱炭素に向けた包括的な取り組みを進めています。

(*4) Carbon Disclosure Project

(*5) 気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)

(*6) 経済産業省が公表した「GXリーグ基本構想」に基づき設置され、持続可能な成長実現を目指す企業が、様々な企業群や官公庁、大学など一体となり、経済社会システムの変革や新たな市場を作るための実践を行う場。

また、フランスのEcoVadis（エコバディス）社が実施するサステナビリティ評価において「シルバー」を取得。2023年5月には、当社の人権や調達の方考え方を示す「サンメッセ人権方針」「サンメッセサステナブル調達方針」を策定。

あらゆるステークホルダーとの共創による、サステナビリティ経営推進の仕組みづくりに積極的に取り組んでいます。



- ・ 2030年までに2013年度比46%減
- ・ 2050年までにカーボンニュートラル達成

また、将来を担う優秀な人財の採用にも注力し、働き方改革においても魅力ある働きやすい職場環境を提供することでよりよい環境整備に努め、多様な考え方やダイバーシティを奨励しています。

さらには代表取締役社長を塾長とする「社長塾」を発足し、当社が2035年の100周年において持続的発展を遂げ社会に必要とされる企業であるためにともに考え、その時にリーダーとなる人財育成を推進しております。

当社はこれらの活動を通じて、新・中長期経営のアクションプランに掲げる「夢ある企業への創造にチャレンジ」に取り組み、100周年、さらにその先においても、社会に選ばれる企業であり続けられるよう邁進してまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) サステナビリティ全般に関する考え方及び取組み

①ガバナンス

当社は、長期安定的な企業価値の向上を経営の重要な課題としており、その実現のために企業を取り巻くステークホルダーの満足を図り、経済価値、社会価値、企業価値のバランスをとりながら企業全体の価値を高めていくことが重要と考えております。

当社の企業理念に基づき、Innovation for 100th anniversary サンメッセ新・中長期経営ビジョンの下、印刷を核に総合力を活かしたソリューションを提供することで、サンメッセグループ一体となり連携を強化・促進し、様々な地域課題の解決に貢献するとともに中長期経営のアクションプランを達成するための信頼高い企業像を目指しております。

この実現とサステナビリティ経営をグループ全社において推進するため、代表取締役社長が委員長を務める「サステナビリティ委員会」を設置しております。当社が取り組む環境・社会を含むCSR・サステナビリティに関わる取組みに関する方針を定め、サンメッセグループ全体の取組みを加速させ、今後より社会課題の解決に取り組んでまいります。

②戦略

当社は、サステナビリティ戦略の推進において、特に気候変動対策や環境に関する取組みとして、2022年6月にカーボンニュートラル宣言を公表し、現在、具体的なロードマップ策とKPIを策定中であります。また、「ハリオが棲める環境への持続的取組み」を方針として掲げ、当社が環境負荷低減の取組みを推進することで、地域全体の環境の取組みが推進されるよう高い志を持って取り組んでおります。

また、人は財と捉え、新しい時代をリードしていく人財育成のため、階層別・職種別の社員教育を実施しております。ポストコロナ禍やワークライフバランス、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）などに対応することで、社員一人ひとりが生きがいを持って働ける環境づくりを推進しております。また、人的資本に関する情報開示のガイドラインIS030414の視点を取り入れ、人的資本経営の推進にも取り組んでおります。2023年には「サンメッセグループ人権方針」と「サステナブル調達基本方針」を策定し、グループ全体で人権意識を高め人的資本経営の基盤を整えております。

当社は、岐阜県下の上場企業として初めてSDGs宣言を発し、現在7つのゴールに向けた経営推進を行っております。この本質には当社が創業以来大切にしてきた“事業を通じて地域社会の発展に貢献する”という普遍的なポリシーがあります。

地域への愛、お客様に対する奉仕の精神で、地域から頼られ、そして期待される存在であり続けるため、SDGs推進において事業を通じた視点を強く意識し、SDGsを経営実装すべく意欲的な推進を図っております。

パートナーシップ強化による意欲的な実践において、当社のお客様ネットワーク網を貴重な財産と認識し、民間企業はもちろん、学校教育、医療、金融、官公庁などの自治体、公共団体、NPO／NGO、個人等々、と裾野が広く多種多様なマルチステークホルダーとの協働は、今後の当社における地域での共存共栄により活かしていくものとなります。

岐阜県を中心とした市町村における各地域の社会的課題を解決するという視点を重要課題と捉え、「SDGsを共通言語」とすることでステークホルダーとの連携を意識し、既に多くの活動につなげております。

民間企業だけでなく、官公庁や自治体との協力や、岐阜県内の大学とのSDGs連携や包括協定の締結など、「共創」の取組みを通じて地域の活性化や環境保全、次世代育成、レジリエントなまちづくりなどを実現し、様々な価値創出に向けたSDGsの達成の機会を広げております。

これらの活動を、当社独自の考え方による「社会価値共創事業モデルSSI-G（Sun Messe Social Impact Gifu）」として体系づけております。

今後、より多くのパートナーとの出逢いの場を共創に繋げていくことは、当社がサステナビリティ経営を実装し、これらの社会変革に真摯に取り組んでいく姿勢を示していくために重要なことと捉えております。当社が目指す未来への価値共創をさらに推進し、なくてはならない企業としての変革に努めてまいります。

③リスク管理

当社は、「リスク管理委員会」にて全社リスクを一元的に管理するとともに、重要リスクの対応方針や対応方法を審議し、対応状況の確認を行っております。またサステナビリティに係るリスクの選別、優先的に取り組む事柄については、サステナビリティ委員会により詳細な検討を行い、共有しております。サステナビリティに関する重要リスクへの対応状況は、サステナビリティ委員会においてモニタリングされ、その内容は取締役会へ報告されております。

④指標及び目標

当社は、上記「(2) 戦略」において記載した気候変動対応として、2050年のカーボンニュートラル実現及びScope 1 + 2による温室効果ガス排出量を2030年度比46%に削減することを指標及び目標としております。

また、人財の多様性確保を含む管理指標として、ISO30414に基づく人的資本経営に関する指標で管理を行い、社員一人当たりの売上高、年間総労働時間（社員一人当たり）、女性管理職比率、育児休職の推移などを主要な指標としてその進捗を管理し、取締役会へ報告しております。

(2) 気候変動対策

当社は、金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース[TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures]の提言へ賛同しております。この提言に基づき、気候変動が持続的成長へ影響を及ぼすことを認識し、事業にもたらすリスクと機会のシナリオを分析することで積極的な情報開示とともに企業価値向上に努めております。

①ガバナンス

当社は、「サステナビリティ委員会」を創設し、事業戦略と結びついた社会課題の解決と、ネガティブインパクトの低減に向けた取り組みを行っております。また、「ISO実行委員会」と省エネを中心に環境保全の役割を担う「省エネ部会」による環境推進体制で、年2回行われるマネジメントレビューを通じて、サステナビリティ全般の方針や目標、その進捗や目標達成状況について社長に報告され、改善や是正の検討を行っております。

②戦略

当社は、2022年6月に「カーボンニュートラル宣言」を公表しています。気候変動に伴う移行リスク、物理リスク、機会要因などを分析し、脱炭素社会実現に向け、今後の事業ポートフォリオの転換とともに「移行計画」による戦略的な対応を行っていきます。複数のシナリオに基づく分析に基づき、その影響を特定し、実施すべき施策を決定していきます。

また、FSC®森林認証紙や環境に配慮した印刷手法の採用等により、環境印刷の受注増が期待されるほか、環境コンサルティングに関する事業機会を拓けるビジネスチャンスを活かしてまいります。

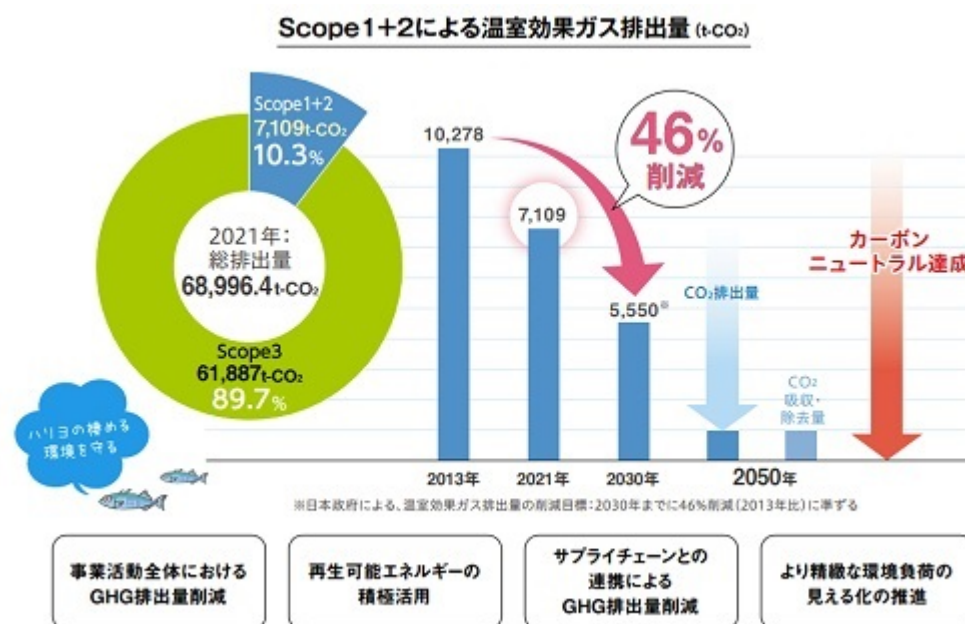


③リスク管理

頻発する自然災害に伴う生産拠点・工場への影響や、気候変動によって各種原材料の調達コストが増加するリスクについては物理的に影響を伴うリスクの一環として対処していきます。同時に、今後想定される規制の変化、炭素税の導入や消費者の環境配慮への意識の高まりなどの移行リスク、移行リスクの拡大による各種原材料調達のコスト増加による財務面での影響などに対しても準備をしております。

④指標及び目標

気候変動関連目標として、2050年カーボンニュートラルの実現、2030年に2013年度比46%のCO₂排出量削減、そして単年での目標として、「事故・刷り直し報告書のCO₂を対前年度目標比20%削減」や「環境配慮印刷対応製品、サービスの提供件数及び受注件数」を目標化し、その進捗を管理しております。



(3) 人的資本及び多様性に関する考え方と取り組み

将来を担う優秀な人財の採用にも注力し、人事考課制度では社員一人ひとりの目標達成度や成果を評価するための目標管理制度を導入しています。働き方改革においても、魅力ある働きやすい職場環境を提供することで、よりよい環境整備に努め、多様な考え方とダイバーシティを奨励しております。

①人財育成

人財の育成においては、社員教育の注力分野として、デジタル・IT関連の教育を進めています。社会のペーパーレス化が急速に進む中、社員一人ひとりのITリテラシーを高める必要があるため、外部講師による研修などを開催していきます。

また、当社代表取締役を塾長とする「社長塾」を発足し、当社が2035年の100周年において持続的発展を遂げ社会に必要とされる企業であるために共に考え、その時にリーダーとなる人財の育成を推進しております。

階層別・職種別教育においては、それぞれの「目指す人財像」を明確にした研修を計画・実施しております。営業部門の昇進者は製造現場へ、製造部門の昇進者は営業同行するなど、部署を越えた研修を行っているほか、eラーニング研修として「会社と数字（若手）」「チームマネジメント（中堅）」「指導・育成（管理職候補）」など、階層別に各クラス2回の教育プログラムを実施しております。

教育計画（一部）		
■ 階層別教育	■ 職種別教育	■ 年代別教育
入社1～6年	営業職	20代
新入研修、新人営業研修、eラーニングによるビジネススキル・ビジネスマナー研修、途中入社教育	OJT営業研修 役割別営業研修	社会人基礎力
係長・チーフ	技能職	30代
考課者研修、eラーニングによるマネジメント研修等	OJT技術教育	健康管理
課長級	全員共通	40代
職種別管理職研修、考課者研修、eラーニングによるマネジメント研修等	ITパスポート研修、情報セキュリティ講座、ハラスメント講座	メンタルヘルス
部長級	女性昇進候補者	50代
ガバナンス教育	女性活躍推進研修	年金セミナー 介護サービス

②社員エンゲージメント

当社では社員の会社に対する意識や問題点などを把握し、改善につなげていくため、ES（Employee Satisfaction調査）を実施しています。2021年度の調査では、総合満足度32.1%（前回34%）と1.9ポイント減少となりました。各項目の分析を行い、魅力ある会社にしていきます。

③多様な働き方

当社は、自宅やシェアオフィスなどでのリモートワーク、時短勤務を推奨しております。「時短や在宅勤務ができるので子育てしながらでも働きやすい」との理由から、女性の産休・育休取得率は100%、復帰率100%となっております。更に男性の育児休暇取得も推奨するとともに、出産前の社員ヒアリングなどの実践で、制度を利用しやすい環境としております。

④多様性の推進

当社の女性管理職の割合は、業界平均4.2%に対し、当社は6.8%と、高い水準となっております。当社の女性メンバーによるクリエイティブチーム「Link」では、社内での活動に留まらず、多くのお客様から女性ならではの視点や感性、発想力を活かした企画やデザイン、意見交換を製品化させたいなどの多様なご要望にお応えし、これまでにない視点での活躍により期待が持てます。

⑤労働安全・健康

当社では、労働安全衛生・健康経営をさらに推進していくために、2021年11月に「労働安全方針」を作成しました。2021年度の災害度数率は5.9となっており、引き続き、労働災害を防ぐ活動を進めていきます。教育として、新入社員研修、各種セミナーのほか、労災体験会を企画し、印刷業務で発生するローラーに挟まれる危険性を認識する「はさまれ体験」なども行っております。

健康面では、製造部管理職を対象にメンタルヘルス研修会を企画し、部下のメンタル面での不調にいち早く気付くための研修を行いました。

“企業は人なり”の視点は、当社の強みを最大限発揮できる大きなチャンスとしても捉えております。これからも社会の持続的発展と、グループ全体の持続的成長を両立していくためのサステナビリティ経営をより一層推進させるための意欲的な活動として据えてまいります。

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、当該リスク発生の回避及び発生した場合の対応に努めております。

ただし、記載された事項以外にも予見することが困難なリスクが存在し、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、文中の将来に関する記載は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 事業を取り巻く経済環境及び需要動向に関するリスク

当社グループの主力事業である印刷事業は、開発・生産・流通・調達などの事業活動をベースとして展開しており、当社グループの業績及び財政状態は、事業活動を行ううえで経済環境や需要動向の変化により、様々な形で影響を受けております。ペーパーレス化の進行などの市場環境変化の中で、新たな事業領域において売上を拡大することができず、価格競争力向上のための原価削減施策が不十分であった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 法律・規制・著作権に関するリスク

当社グループは、事業活動を行ううえで、投資、環境保護、個人情報保護など、関連する法律や規制の適用を受けております。当社グループの事業活動に影響を及ぼすものとして、例えば、インキ溶剤に関する表示制度・規制や化学物質規制などが制定・導入されております。したがって、将来においても、新たな法律や規制により、事業活動の制約やコストの上昇など当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 事業活動中断のリスク

① 災害、戦争・テロ・暴動、社会的・政治的混乱など

当社グループは、開発・生産・流通・販売・調達などの事業活動をベースとして展開しており、様々な地域における大規模な地震や風水害などの自然災害や、戦争・テロ・暴動、ボイコット、感染症、エネルギー供給障害、交通障害を含む社会的・政治的混乱などのリスクにさらされています。さらに、政治的・経済的条件の急激かつ大幅な変動などの要因により、当社グループの事業活動の継続に支障をきたす可能性があり、その結果、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループの事業活動の中核として重要な拠点が多数所在している国内における地震災害リスクに対しては、当社グループは耐震診断の結果に基づき優先順位をつけて耐震補強工事を進めております。さらに、地震災害が発生した場合の迅速な初期対応の推進及び業務を早期に復旧継続させることを目的とした事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の策定など、具体的に進めております。しかしながら、実際に地震災害が発生した場合には、操業の中断・縮小、施設等の損害、多額の復旧費用などにより、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

② 情報システム障害、情報セキュリティ管理

当社グループの事業活動における情報システムの重要性は非常に高まっており、セキュリティの高度化などシステムやデータの保護に努めておりますが、それにもかかわらず、災害やサイバー攻撃など外的要因や人為的要因などにより情報システムに障害が生じた場合、重要な業務やサービスの停止、機密情報・データや個人情報の盗取や漏洩などのインシデントを引き起こし、事業活動の継続に支障をきたす可能性があります。

また、当社はプライバシーマークの認定や情報セキュリティマネジメントシステム（ISO27001）の認証を取得し、個人情報や機密情報の管理に十分留意しておりますが、今後、不測の事態により、万一情報の流失による問題が発生した場合には、当社グループのイメージや社会的信用の低下、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

③ ストライキ

当社グループは、円滑な労使関係の構築に努めておりますが、労使間の交渉が不調に終わり、長期間に及ぶストライキなどが発生した場合、事業活動の継続に支障をきたす可能性があり、その結果、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 気候変動に関するリスク

当社グループは、気候変動に伴い、台風の大型化、洪水や渇水の発生頻度の増加による事業活動中断のリスク、降雨パターンの変化に伴う原材料調達に関するリスクがあります。また、当社グループの生産拠点におけるCO₂排出量の削減、印刷を中心とした販促ツールにおける環境負荷低減などの製品開発などに努めておりますが、国内外において気候変動対策のための制度・規制の導入が進んだ場合、事業活動の制約やコストの上昇など、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 競争激化に関するリスク

当社グループは、事業を展開する市場において多数の企業と競争しているため、価格競争が激化し受注価格の低下が発生しております。このような事業環境に対し、当社グループは、原価の低減や効率性の追求、顧客や市場への新しい付加価値の高い製品の開発と提案などによる内部努力を継続しておりますが、それらの努力で価格低下を吸収できない場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 製品の欠陥に関するリスク

当社グループは、製造業者として製品の品質に万全を期すことに努めております。製品品質の確保、品質に関する早期警報システムの構築など、品質保証体制の充実に努めておりますが、予測できない原因により製品に欠陥が生じた場合は、回収費用、社会的な信用の毀損、顧客への補償や訴訟費用・賠償費用などにより、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 知的財産侵害に関するリスク

当社グループでは、知的財産を企業の競争力を高めるための重要な経営資源と位置づけ、第三者の知的財産権に対する侵害の予防及び保有している多数の知的財産権の保護に努めております。それにもかかわらず、当社グループの認識又は見解との相違から、第三者から知的財産権を侵害したとして訴訟を受け、当社グループとして損害賠償などが必要になった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 印刷用紙の価格変動に関するリスク

当社グループの製品の主要材料のほとんどは印刷用紙が占めております。その印刷用紙の価格は市況により変動いたします。急激な市況の変化による仕入価格の上昇により、販売価格に転嫁するまでにタイムラグが生じたり、完全に販売価格に転嫁できない場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 原材料調達に関するリスク

当社グループは、事業に使用する印刷用紙、インキ等の原材料を外部メーカーから調達しております。事業活動の維持のためには、十分な量の原材料を適正な価格で調達することが重要ですが、外部メーカーからの供給量の大幅な不足や納期の遅延などが発生した場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 売上債権回収に関するリスク

当社グループは与信管理の強化に努めておりますが、得意先の倒産などによる貸倒れが生じた場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 設備投資に関するリスク

当社グループは、営業キャッシュ・フロー、銀行融資等により必要資金をまかない設備投資を行っておりますが、市場環境の変化により投資回収期間が長期化したり、過大な償却費負担が業績を圧迫するなど、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 有価証券投資に関するリスク

当連結会計年度末において当社グループが保有している投資有価証券の合計は36億50百万円であり、大半は時価のある株式です。従いまして、株式相場の変動によっては、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 感染症発生及び拡大に関する影響について

当社グループは、新型コロナウイルス感染症を含む感染症の発生及び拡大に際して、顧客、取引先及び従業員の安全を第一に、感染拡大の影響には十分な注意を払いながら、生産・営業活動に努め、影響を最小限となるよう取り組んでまいりますが、事業を展開している地域や当社営業所・工場において感染者が発生し営業継続に支障をきたした場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、政府や自治体により発令された緊急事態宣言等による経済活動の縮小により、各種印刷物の受注やイベントの開催等が減少するなど、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は、次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する各種規制が徐々に緩和され、社会経済活動の正常化に向け景気の持ち直しの動きが見られたものの、米国発信の金融不安、ウクライナ紛争の長期化による原油・原材料価格の高騰、欧米諸国での急速な金融引き締め及び中国・台湾問題の地政学的リスクも高まり、景気の先行きは不安定な状況で推移いたしました。

印刷業界におきましては、情報媒体のデジタルシフトによるペーパーメディアの需要減少に伴う競争の激化、価格の低迷という構図が長期にわたり継続していることに加え、エネルギー価格や原材料価格の高騰により、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境下にあって当社グループは、2025年に向けた90周年スローガン「Challenge for Change 2025 ～変革への挑戦～」のフェーズ2となるメインテーマとして当連結会計年度から「One Sun Messe」を掲げ、一体感を意識した組織力の強化・改革に注力し、更なる事業成長と企業価値向上を実現できるよう努めてまいりました。また、当社の強みを最大限発揮できる幅広い領域を視野において、地球環境並びに社会の持続的発展と、グループ全体の持続的成長を両立していくためのサステナビリティ経営につきましても、企業としてのアプローチや具体的な取り組みの策定を推し進めております。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は171億48百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益は2億40百万円（前年同期比48.1%減）、経常利益は3億97百万円（前年同期比34.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は3億27百万円（前年同期比23.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

（印刷事業）

一般商業印刷物の売上高は、カタログやセットアッセンブリーなどを行うBPO関連等の増加により122億48百万円（前年同期比4.8%増）となりました。また、包装印刷物の売上高は、厚物台紙などが減少して27億10百万円（前年同期比5.4%減）、出版印刷物の売上高は11億57百万円（前年同期比17.4%減）、合計売上高は161億16百万円（前年同期比1.0%増）となりました。なお、営業利益は原材料費や水道光熱費等の増加の影響が大きく1億11百万円（前年同期比69.4%減）となりました。

（イベント事業）

イベント需要の回復とコロナ関連事業の継続受注により、売上高は10億32百万円（前年同期比59.1%増）と大きく増加いたしました。また、営業利益は売上高が増加したこととコスト低減等に努めたことにより、1億25百万円（前年同期比30.1%増）となりました。

財政状態につきましては、次のとおりであります。

（流動資産）

当連結会計年度末における流動資産は、前連結会計年度末と比べて5億86百万円増加し、71億42百万円となりました。これは、現金及び預金が6億82百万円増加したこと等が主な要因であります。

（固定資産）

当連結会計年度末における固定資産は、前連結会計年度末と比べて3億23百万円減少し、124億8百万円となりました。これは、投資有価証券が94百万円増加しましたが、建物及び構築物が1億1百万円、機械装置及び運搬具が2億88百万円それぞれ減少したこと等が主な要因であります。

（流動負債）

当連結会計年度末における流動負債は、前連結会計年度末と比べて64百万円増加し、53億22百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が56百万円、1年内返済予定の長期借入金が52百万円増加したこと等が主な要因であります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は、前連結会計年度末と比べて76百万円減少し、32億26百万円となりました。これは、長期借入金が59百万円減少したこと等が主な要因であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末と比べて2億74百万円増加し、110億2百万円となりました。これは、利益剰余金が2億19百万円増加したこと等が主な要因であります。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、17億94百万円となり、前連結会計年度末より5億85百万円増加いたしました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は11億66百万円（前年同期は9億44百万円）となりました。収入の主な要因といたしましては、税金等調整前当期純利益4億68百万円、減価償却費6億86百万円、未払消費税等の増加額1億59百万円等であり、支出の主な要因といたしましては、法人税等の支払額1億56百万円等によるものであります。

前連結会計年度と比べ2億22百万円収入が増加した主な要因は、売上債権及び契約資産の減少額が3億29百万円増加したこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4億65百万円（前年同期は15億94百万円）となりました。支出の主な要因といたしましては、有形固定資産の取得による支出3億90百万円等によるものであります。

前連結会計年度と比べ11億29百万円支出が減少した主な要因は、有形固定資産の取得による支出が11億61百万円減少したこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億32百万円（前年同期は2億92百万円）となりました。収入の主な要因といたしましては、短期借入れによる収入2億80百万円等であり、支出の主な要因といたしましては、短期借入金の返済による支出2億80百万円、配当金の支払額1億8百万円等によるものであります。

前連結会計年度と比べ1億60百万円支出が減少した主な要因は、短期借入金の返済による支出が1億円減少したこと等によるものです。

③ 生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
印刷事業	15,843,613	101.4
イベント事業	—	—
計	15,843,613	101.4

(注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 金額は販売価格で表示しております。

b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
印刷事業	16,190,170	100.5	2,285,057	103.3
イベント事業	1,032,341	159.1	—	—
計	17,222,512	102.7	2,285,057	103.3

(注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 金額は販売価格で表示しております。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
印刷事業	16,116,107	101.0
イベント事業	1,032,341	159.1
計	17,148,448	103.3

(注) セグメント間取引については相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。当社グループの連結財務諸表で採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。連結財務諸表の作成にあたり、連結会計年度末における資産・負債の報告数値、連結会計年度における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りは、連結会計年度末時点で入手可能な情報を基に検証等を行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果とは異なる場合があります。なお、特に下記の見積りが連結財務諸表作成において重要な影響を及ぼすと考えております。

a. 繰延税金資産

当社グループは、将来の課税所得を合理的に見積り、回収可能性を判断したうえで繰延税金資産を計上しております。将来の課税所得は過去の課税所得の推移や将来の課税所得の見込に基づいて見積っているため、税制改正や経営環境の変化及び新型コロナウイルス感染症の影響等により課税所得の見積りが大きく変動した場合には、繰延税金資産の計上額が変動する可能性があります。

b. 固定資産の減損

当社グループは、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損処理の要否を検討しております。減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、事業計画や経営環境の変化及び新型コロナウイルス感染症の影響等により前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には、減損処理が必要となる可能性があります。

c. 退職給付に係る負債

従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上使用される前提条件に基づいて算出しております。これらの前提条件には、割引率、退職率、死亡率及び昇給率など多くの見積りが含まれており、実際の結果が前提条件と異なる場合や前提条件が変更された場合、認識される費用及び債務に重要な影響を及ぼす可能性があります。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の経営成績につきましては、次のとおりであります。

印刷事業の売上高につきましては、包装印刷物や出版印刷物は減少しましたが、一般商業印刷物のカタログやセットアッセンブリーなどを行うBPO関連などが増加しました。また、イベント事業の売上高につきましては、イベント需要の回復とコロナ関連事業の継続受注により大きく増加しました。以上により、前連結会計年度に比べ5億44百万円増収の171億48百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

売上総利益につきましては、売上高は増加したものの原材料費や水道光熱費等の増加の影響が大きく、前連結会計年度に比べ1億13百万円減益の34億57百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、売上高の増加等により、前連結会計年度に比べ1億9百万円増加の32億16百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

その結果、営業利益は前連結会計年度に比べ2億23百万円減益の2億40百万円（前年同期比48.1%減）となりました。

営業外損益につきましては、受取配当金の増加等により、前連結会計年度に比べ14百万円増益の1億56百万円の利益（前年同期比10.1%増）となりました。

その結果、経常利益は前連結会計年度に比べ2億8百万円減益の3億97百万円（前年同期比34.4%減）となりました。

特別損益につきましては、前連結会計年度の特別損失に製品保証費を計上した影響等により、前連結会計年度に比べ3億51百万円増益の71百万円の利益（前年同期は2億79百万円の損失）となりました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に比べ63百万円増益の3億27百万円（前年同期比23.9%増）となりました。

当連結会計年度の財政状態につきましては、「第2 事業の状況」の「4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「(1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

③ 経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

「第2 事業の状況」の「3 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

④ 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

a. 資金需要

設備投資、運転資金及び配当金の支払いに資金を充当しております。

b. 資金の源泉

主として営業活動によるキャッシュ・フローにより、必要とする資金を調達しております。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況」の「4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「(1) 経営成績等の状況の概要 ② キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

なお、キャッシュ・フロー指標は、以下のとおりであります。

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
自己資本比率(%)	52.5	51.9	55.1	55.2	55.8
時価ベースの自己資本比率(%)	33.9	29.4	31.3	28.7	28.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	2.0	1.9	3.9	1.9	1.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	95.1	94.4	49.5	105.9	137.2

(注) 自己資本比率 : 自己資本／総資産

時価ベースの株主資本比率 : 株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : キャッシュ・フロー／利払い

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

⑤ 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について

2022年5月13日に予想を公表しました「2023年3月期の連結業績予想」にかかる当連結会計年度の達成状況は、以下のとおりです。

売上高は計画比2億7百万円増（1.2%増）となりました。この主な要因といたしましては、印刷事業における個人情報を扱う印刷物や、イベント事業におけるコロナ関連事業が想定より増加したこと等によるものであります。営業利益は計画比1億5百万円減（30.4%減）となり、営業利益率は計画の2.0%を下回り1.4%となりました。この主な要因といたしましては、原材料価格や水道光熱費等の上昇によるコストの増加が想定を上回ったこと等によるものであります。

ROEは計画比0.3ポイント増の3.0%となりました。この主な要因といたしましては、固定資産売却益や受取保険金等の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を上回ったことによるものであります。

指標	2023年3月期 (計画)	2023年3月期 (実績)	2023年3月期 (計画比)	2024年3月期 (計画)
売上高	16,940百万円	17,148百万円	207百万円増 (1.2%増)	17,025百万円
営業利益率	2.0%	1.4%	0.6ポイント減	1.1%
ROE（自己資本当期純利益率）	2.7%	3.0%	0.3ポイント増	1.8%

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額(無形固定資産含む)は、273百万円であります。

印刷事業においては、主に合理化・省力化を目的とした機械装置の購入に162百万円、建物附属設備購入その他に111百万円を投資いたしました。

イベント事業においては、重要な設備投資はありません。

なお、当連結会計年度において、生産能力に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去等はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(2023年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社工場 (岐阜県大垣市)	印刷事業	生産設備	1,825,905	1,856,759	1,250,552 (32,147)	153,023	5,086,241	335 [131]
中工場 (岐阜県大垣市)	印刷事業	生産設備	35,626	36,061	11,419 (6,811)	1,139	84,247	28 [31]
西工場 (岐阜県大垣市)	印刷事業	生産設備	66,419	129,468	86,963 (7,795)	2,993	285,845	46 [29]
本社 (岐阜県大垣市)	印刷事業	その他の設備	103,797	13,884	123,073 (3,128)	13,697	254,452	110 [23]
東京支店 (東京都江東区)	印刷事業	その他の設備	132,207	2,559	137,135 (290)	236	272,139	42 [3]
新宿支店 (東京都新宿区)	印刷事業	その他の設備	593	0	— (—)	123	717	17 [—]
大阪支店 (大阪府中央区)	印刷事業	その他の設備	1,352	695	6,336 (8)	342	8,726	11 [2]
名古屋支店 (名古屋市中区)	印刷事業	その他の設備	82,946	3,200	440,719 (1,710)	877	527,743	41 [6]
岐阜支店 (岐阜県岐阜市)	印刷事業	その他の設備	28,245	979	364,129 (3,240)	422	393,777	40 [3]
サンメッセ ソフトピアビル (岐阜県大垣市)	印刷事業	その他の設備	15,097	—	138,377 (1,149)	458	153,933	— [—]
厚生施設	印刷事業	—	135,634	—	174,205 (5,025)	0	309,839	—
その他	印刷事業	—	8,576	0	550,279 (10,179)	24,813	583,668	—
計			2,436,402	2,043,609	3,283,192 (71,485)	198,127	7,961,332	670 [228]

(注) 1. 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2. 東京支店及びサンメッセソフトピアビルの建物の一部、その他の土地の一部などを賃貸しております。なお、東京支店の貸与先はフジテック㈱、天龍造園建設㈱、サンメッセソフトピアビルの貸与先は国内子会社日本イベント企画㈱であり、その他の賃貸は駐車場及び事業用地であります。

3. 新宿支店は事務所を賃借しており、年間賃借料は11,187千円であります。

4. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品並びにリース資産及び建設仮勘定の合計であります。

5. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

6. 厚生施設の内訳は、次のとおりであります。

区分名称	所在地	建物及び構築物	土地
		金額(千円)	金額(千円) (面積㎡)
社宅(8か所)	岐阜県大垣市 他	116,069	96,176 (862)
研修・保養施設(2か所)	岐阜県養老郡養老町 他	19,564	78,028 (4,162)

7. その他の内訳は、次のとおりであります。

区分名称	所在地	建物及び構築物	土地
		金額(千円)	金額(千円) (面積㎡)
賃貸駐車場等(4か所)	岐阜県大垣市 他	69	418,125 (4,378)
保養所用地(2か所)	長野県下伊那郡 他	—	1,169 (1,739)
厚生施設用地	岐阜県大垣市	—	28,248 (3,175)
その他	岐阜県大垣市 他	8,507	102,736 (887)

(2) 国内子会社

(2023年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
日本イベント 企画株式会社	本社 (岐阜県岐阜市)	イベント 事業	その他の設備	—	2,746	— (—)	133	2,879	12 [8]

(注) 1. 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品であります。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(3) 在外子会社

(2023年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
Sun Messe (Thailand) Co., Ltd.	本社 (タイ王国 バンコク)	印刷事業	その他の設備	—	1,162	— (—)	488	1,650	8

(注) 1. 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品であります。

3. 従業員数は就業人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,825,050	17,825,050	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	17,825,050	17,825,050	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2005年11月18日(注)	8,912,525	17,825,050	—	1,236,114	—	1,049,534

(注) 2005年9月30日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主の所有株式数を、1株につき2株の割合をもって分割しました。

(5) 【所有者別状況】

(2023年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	—	13	12	169	6	23	11,313	—
所有株式数(単元)	—	17,899	218	25,726	31	24	134,319	3,350
所有株式数の割合(%)	—	10.04	0.12	14.44	0.02	0.01	75.37	—

(注) 1. 自己株式2,328,162株は、「個人その他」に23,281単元、「単元未満株式の状況」に62株含まれております。

2. 「その他の法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が11単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

(2023年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社大垣共立銀行 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	岐阜県大垣市郭町3丁目9-8 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	772	4.98
田中 義一	名古屋市中村区	505	3.26
田中 良幸	岐阜県大垣市	487	3.14
田中 芙美子	岐阜県大垣市	430	2.77
田中 尚一郎	東京都杉並区	424	2.73
田中 勝英	岐阜県大垣市	405	2.61
サンメッセ従業員持株会	岐阜県大垣市久瀬川町7丁目5-1	395	2.54
花林 雅子	岐阜県羽島市	344	2.22
株式会社十六銀行	岐阜県岐阜市神田町8丁目2-6番地	340	2.19
田中 信康	東京都江東区	317	2.05
計	—	4,422	28.54

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(2023年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等) (注1)	普通株式 2,328,100	—	—
完全議決権株式(その他) (注2)	普通株式 15,493,600	154,936	—
単元未満株式	普通株式 3,350	—	—
発行済株式総数	17,825,050	—	—
総株主の議決権	—	154,936	—

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、すべて当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の株式数には、株式会社証券保管振替機構名義の株式1,100株が含まれており、同欄の議決権の数には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

② 【自己株式等】

(2023年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
サンメッセ株式会社	岐阜県大垣市久瀬川町 7丁目5番地の1	2,328,100	—	2,328,100	13.06
計	—	2,328,100	—	2,328,100	13.06

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,328,162	—	2,328,162	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、将来における経営体質の強化や収益の向上に必要な設備投資、研究開発等を実行するための内部留保資金を確保しつつ、経営成績などを勘案し、安定かつ継続的に行うことを配当政策の基本方針としております。また、毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針は、中間と期末の年2回の配当を行うこととしており、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨及び中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

このような方針のもとに、当事業年度の期末配当につきましては、2023年5月12日開催の取締役会において、普通配当を1株当たり4円とすることを決議いたしました。中間配当として3円をお支払いしておりますので、当事業年度の年間配当は、1株につき7円となりました。この結果、当事業年度の純資産配当率は1.0%となりました。

内部留保資金につきましては、生産効率向上のための設備投資資金に充当するとともに、経営体質の強化のために活用し、今後の一層の事業展開を図ってまいりたい所存であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2022年11月4日 取締役会	46,490	3.0
2023年5月12日 取締役会	61,987	4.0

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

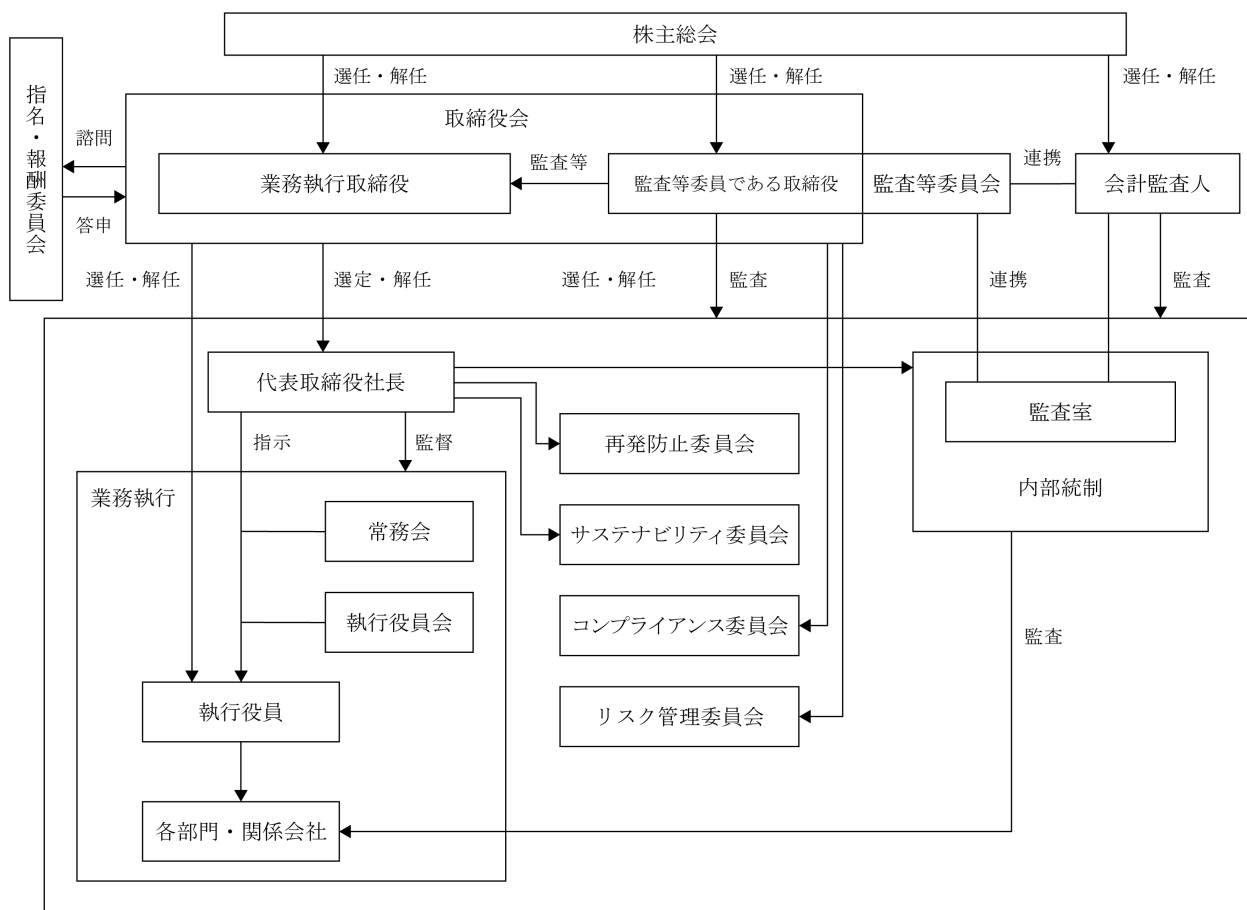
当社は、「法令順守」「環境保護」「技術革新」を経営の三本柱として、企業価値の継続的強化を目指しております。この経営の三本柱のもと、株主及びその他のステークホルダーに対して、効率的かつ健全で透明性の高い経営が実現できるよう経営体制、経営組織を整備し実施していくことが、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方であり、経営の最重要課題の1つと位置づけております。

② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、監査等委員会設置会社であり、取締役会、監査等委員会、会計監査人を設置しております。会社の機関及び内部統制の体制は、下記のとおりであります。現状の体制において、当社の企業規模、展開している事業等を勘案し、迅速な意思決定を図ることが十分可能であると考えております。

取締役会は11名、うち、監査等委員である取締役3名（有価証券報告書提出日現在）で構成されており、経営に関する重要事項の最高意思決定機関として毎月開催し、迅速な対応に努めております。また、取締役会は、「業務執行に関する意思決定」「業務執行の監督」を担っており、当社では、執行役員制度を導入して「業務執行機能」の分離を推進しております。執行役員は、取締役会で選任され、社長の指示のもとに業務を執行しております。

なお、取締役の指名、報酬について審議し、取締役会に答申するため、指名・報酬委員会を設置しております。委員会は3名（うち2名が社外取締役）で構成され、社外取締役が議長を務めております。



各機関ごとの構成員は、次のとおりであります。

役職名	氏名	取締役会	常務会	執行役員会	監査等委員会	指名・報酬委員会	再発防止委員会	サステナビリティ委員会	コンプライアンス委員会	リスク管理委員会
代表取締役会長	田中 良幸	○								
代表取締役社長	田中 尚一郎	◎	◎	◎		○	◎	◎	◎	◎
取締役専務執行役員	伊東 覚	○	○	○			○	○		
取締役専務執行役員	田中 信康	○	○	○			○	○		
取締役常務執行役員	由良 直之	○	○	○			○	○		
取締役執行役員	竹林 啓路	○		○			○	○	○	○
取締役執行役員	千代 耕司	○	△	○			○	○	○	○
取締役執行役員	衣斐 輝臣	○		○			○	○	○	○
取締役(監査等委員)	水谷 和則	○		△	◎				○	○
社外取締役(監査等委員)	石岡 秀夫	○		△	○	◎				
社外取締役(監査等委員)	澁谷 英司	○		△	○	○				
執行役員	平野 高光			○			○	○		
執行役員	渡辺 数巳			○			○	○	○	○
執行役員	宮川 薫			○			○	○	○	○
監査室長	長井 芳郎								△	△

※ ◎は機関の長（議長又は委員長）、○は構成員、△は構成員ではない出席者を示しております。

③ 企業統治に関するその他の事項

1. 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況並びに提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、取締役会において、次のとおり決議しております。

a. 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・当社は、事業活動における法令、企業倫理、社内規程の順守を確保するため、順守すべき事項を「社員行動基準」として定め、当社グループの取締役等及び使用人に周知徹底を図る。
- ・当社は、コンプライアンス（法令順守）に関する規程の制定及び内部通報制度を構築するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、運用管理する。

b. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・当社は、社内規程に基づき、各種会議等の議事録を作成保存するとともに、重要な職務の執行及び決裁にかかる情報について記録し、適切に管理する。

c. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・当社は、リスク管理に関する規程を制定するとともに、リスク管理委員会を設置し、運用管理する。

d. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・当社は、職務権限に関する規程を制定し、監査室が運用状況を監視する。

e. 当社及びその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

1) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

- ・当社は、関係会社の管理に関する規程に基づき子会社を管理し、子会社は、業務執行状況、財務状況等を定期的に報告するものとする。

2) 子会社の損失の危機の管理に関する規程その他の体制

- ・当社は、関係会社の管理に関する規程に基づき子会社を管理し、当社及び子会社のリスクに関して定める規程を制定するとともに、リスク管理委員会を設置し、運用管理する。

- 3) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・ 当社は、子会社の自主性を尊重しつつ、当社グループ経営の適正を確保するため、当社取締役等を派遣し、業務執行の監督、監査する。
- 4) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・ 当社は、当社及び子会社のコンプライアンス（法令順守）に関する規程の制定及び内部通報制度を構築するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、運用管理する。
- f. 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
 - ・ 監査等委員会が求めた場合は、監査等委員会の職務遂行を補助するため、監査スタッフを置く。
- g. 上記fの使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項及び監査等委員会の指示の実効性の確保に関する事項
 - ・ 監査等委員会の職務を補助すべき使用人（監査スタッフ）は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の指揮命令には服さず、その任命、異動については、監査等委員会の同意を要するものとする。
- h. 当社及び子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人が監査等委員会に報告するための体制

当社及び子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人は、監査等委員会に対し、規模や業態等に応じて次の事項を遅滞なく報告するものとする。

 - ・ 会社に著しい影響を及ぼすおそれのある事実
 - ・ 取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令、定款に違反する行為
 - ・ 内部通報制度による運用及び通報の状況
 - ・ 毎月の経営状況の重要な事項
 - ・ 内部監査結果の状況
- i. 監査等委員会へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
 - ・ 当社は、当該報告をしたことを理由として通報者に対し、不利益な取扱いを行うことを禁止し、その旨を内部通報に関する規程に明記しております。
- j. 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生じる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
 - ・ 当社は、監査等委員がその職務の執行に関して費用の前払等を請求したときは、当該費用等が監査等委員の職務執行に必要なと認められる場合を除き、当該費用等を負担し、速やかに処理する。
- k. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・ 代表取締役社長と半期ごとに1回、監査室と四半期ごとに1回の意見・情報交換を行うなど連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指す。
1. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは毅然とした態度で臨み、公序良俗に反する行為をしないことを基本方針としております。

 - ・ 反社会的勢力排除に向けた取り組みについて、「企業行動憲章」「社員行動基準」「反社会的勢力対応マニュアル」その他社内規程に定め、毅然とした態度で反社会的勢力との関係を遮断排除することとしております。
 - ・ 対応統括部署を総務部とし、反社会的勢力からの不当要求に対応することとしております。
 - ・ 警察や弁護士等の外部専門機関と緊密な連携関係を構築し、反社会的勢力の情報収集、排除に努めております。

2. 取締役の定数及び選任の決議要件

当社は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の定数は14名以内、監査等委員である取締役の定数は5名以内とし、選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって株主総会にて行う旨、また、累積投票によらないものとする旨、定款に定めております。

3. 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によつては定めず、取締役会の決議によつて定める旨、定款に定めております。これは、剰余金の配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

4. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

5. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であつた者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によつて免除することができる旨、定款に定めております。これは、取締役が職務遂行にあたり期待される役割を十分発揮することを目的とするものであります。

6. 役員等賠償責任保険

当社は、当社及び当社子会社におけるすべての取締役及び執行役員を被保険者とした役員等賠償責任保険を締結しております。当該契約の内容の概要は、以下のとおりであります。

- ・被保険者がその業務の遂行に起因して損害賠償請求がなされたことによって被る損害（法律上の損害賠償金及び争訟費用等）を当該保険契約により補填することとしております。
- ・被保険者の私的な利益または便宜の供与、犯罪行為等による賠償責任に対しては補填の対象外としております。
- ・当該保険の保険料は、全額を当社が負担しております。

④ 取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を16回開催しており、個々の取締役の出席状況については、次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数	備考
田中 良幸	16	16	出席率 100%
田中 尚一郎	16	16	出席率 100%
伊東 覚	16	16	出席率 100%
田中 信康	16	16	出席率 100%
由良 直之	16	16	出席率 100%
竹林 啓路	16	16	出席率 100%
千代 耕司	16	16	出席率 100%
衣斐 輝臣	16	16	出席率 100%
水谷 和則	16	16	出席率 100%
石岡 秀夫	16	16	出席率 100%
澁谷 英司	16	16	出席率 100%

取締役会における具体的な検討事項として、営業活動、人材管理、資金調達などの業務執行に関する意思決定、

各取締役が適正に業務を執行しているかどうかの監督、代表取締役の選定、事業計画や経営戦略等の決定及び監督等があります。また、当事業年度において指名・報酬委員会は1回開催（3名全員出席）され、取締役の指名、報酬について審議し、取締役会に答申しております。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性11名 女性一名 (役員のうち女性の比率-%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
代表取締役 会長	田中 良幸	1940年3月5日	1962年4月 日本ヒューム管(株)(現日本ヒューム(株))入社 1964年11月 当社入社 1990年4月 当社取締役副社長 1991年7月 当社取締役副社長製造本部長 1994年7月 当社取締役副社長営業部門担当 1998年6月 当社代表取締役社長 2004年5月 日本イベント企画(株)代表取締役会長(現) 2006年6月 当社代表取締役会長(現)	(注)3	487
代表取締役 社長 社長執行役員	田中尚一郎	1963年12月20日	1989年12月 当社入社 2005年6月 当社執行役員赤坂営業部長 2007年6月 当社取締役執行役員東京営業部長 2010年4月 当社取締役執行役員関東統括部長 2010年6月 当社取締役執行役員営業副本部長兼関東統括部長 2011年6月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼関東統括部長 2012年9月 Sun Messe (Thailand)Co., Ltd. 代表取締役社長(現) 2013年4月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼関東統括部長兼C & R 部長 2015年4月 当社取締役常務執行役員営業本部長 2015年6月 当社取締役専務執行役員営業本部長 2018年4月 当社代表取締役社長社長執行役員営業本部長 2022年4月 当社代表取締役社長社長執行役員(現)	(注)3	424
取締役 専務執行役員 IPS本部長兼 IPS製造部長 製造本部・ IPS本部管掌	伊東 覚	1960年1月9日	1984年4月 当社入社 2009年6月 当社執行役員製造副本部長兼本社工場長 2011年6月 当社取締役執行役員製造副本部長兼本社工場長 2011年8月 当社取締役執行役員製造副本部長 2012年4月 当社取締役執行役員製造本部長 2015年4月 当社取締役執行役員製造本部長兼生産管理部長 2015年6月 当社取締役常務執行役員製造本部長兼生産管理部長 2015年8月 当社取締役常務執行役員製造本部長 2016年4月 当社取締役常務執行役員製造本部長兼生産管理部長 2016年8月 当社取締役常務執行役員製造本部長 2019年4月 当社取締役常務執行役員IPS・パッケージ本部長 2020年4月 当社取締役常務執行役員営業副本部長 2020年6月 当社取締役専務執行役員営業副本部長兼愛知統括部長兼IPS・パッケージ統括部長 2021年6月 当社取締役専務執行役員営業副本部長兼愛知統括部長兼IPS統括部長 2022年4月 当社取締役専務執行役員IPS本部長 製造本部・IPS本部管掌 2023年6月 当社取締役専務執行役員IPS本部長兼IPS製造部長 製造本部・IPS本部管掌(現)	(注)3	22

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役 専務執行役員 経営企画室長 DX・SX・管理 本部・広報 ・情報コミュニ ケーション 管掌	田中 信康	1966年5月26日	1989年9月 日興証券株式会社(現SMBC日興証券株式会社) 入社 2011年1月 当社入社 2014年8月 当社東京営業部長兼IR/CSR企画推進室長 2015年4月 当社東京営業部長兼コーポレートコミュニ ケーション推進戦略室長 2016年4月 当社営業企画第一部長兼ソリューション戦略 推進室長 2016年8月 当社執行役員営業企画第一部長兼ソリューシ ョン戦略推進室長 2017年8月 当社執行役員ソリューション戦略推進室長 2018年4月 当社執行役員営業副本部長兼ソリューション 統括部長兼ソリューション戦略推進部長 2019年4月 当社常務執行役員経営企画室長兼営業副本部 長兼ソリューション統括部長 2020年6月 当社専務執行役員経営企画室長兼営業副本部 長兼ソリューション統括部長 2021年4月 当社専務執行役員経営企画室長サステナビリ ティ担当兼営業副本部長兼ソリューション統 括部長 2021年6月 当社取締役専務執行役員経営企画室長サステ ナビリティ担当兼営業副本部長兼ソリューシ ョン統括部長 2022年4月 当社取締役専務執行役員経営企画室長 管理 本部・広報・サステナビリティ・ソリューシ ョン管掌 2023年4月 当社取締役専務執行役員経営企画室長 DX・ SX・管理本部・広報・情報コミュニケーショ ン管掌(現)	(注) 3	317
取締役 常務執行役員 営業本部長 営業本部管掌	由良 直之	1962年1月24日	1984年4月 当社入社 2003年8月 当社東京営業部次長 2003年11月 当社赤坂営業部次長 2007年6月 当社赤坂営業部長 2010年4月 当社東京営業部長 2011年6月 当社執行役員東京営業部長 2013年8月 当社執行役員東京統括部長 2015年6月 当社取締役執行役員東京統括部長 2018年4月 当社取締役執行役員営業副本部長兼東京統括 部長 2019年4月 当社取締役執行役員営業副本部長兼東京統括 部長兼東京営業部長 2020年6月 当社取締役執行役員営業副本部長兼東京・大 阪統括部長兼東京営業部長 2021年6月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼東 京・大阪統括部長兼東京営業部長 2022年4月 当社取締役常務執行役員営業本部長 営業本 部管掌(現)	(注) 3	5

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員 総務部長	竹林 啓路	1958年9月8日	1982年4月 当社入社 2006年6月 当社執行役員本社工場長 2007年6月 当社執行役員製造副本部長 2009年6月 当社取締役執行役員製造本部長 2012年4月 当社取締役執行役員品質保証室長 2015年8月 当社取締役執行役員総務部長(現)	(注) 3	11
取締役 執行役員 管理本部長兼 経理部長	千代 耕司	1958年12月5日	1982年4月 当社入社 1994年7月 当社中工場副工場長 2000年9月 当社購買部次長 2001年5月 当社購買部長 2006年6月 当社執行役員経理部長 2015年6月 当社取締役執行役員経理部長 2015年8月 当社取締役執行役員管理本部長兼経理部長(現)	(注) 3	10
取締役 執行役員 品質保証室長	衣斐 輝臣	1960年12月3日	1984年4月 当社入社 1997年4月 当社大阪営業部長 2000年12月 当社本社工場副工場長 2001年8月 当社東工場長 2003年8月 当社総務部長 2006年6月 当社管理本部長兼総務部長 2009年6月 当社執行役員管理本部長兼総務部長 2015年6月 当社取締役執行役員管理本部長兼総務部長 2015年8月 当社取締役執行役員製造副本部長兼本社工場長 2016年8月 当社取締役執行役員製造副本部長兼生産管理部長 2017年1月 当社取締役執行役員品質保証室長(現)	(注) 3	25
取締役 (監査等委員) (常勤)	水谷 和則	1956年3月30日	1979年4月 当社入社 2015年6月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼岐阜・ソリューション統括部長兼本社営業部長 2015年8月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼岐阜統括部長兼本社営業部長 2016年8月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼岐阜統括部長 2018年4月 当社取締役常務執行役員営業副本部長兼岐阜統括部長兼本社営業部長 2019年4月 当社取締役常務執行役員製造本部長 2020年6月 当社製造本部参与 2021年6月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注) 4	21
取締役 (監査等委員)	石岡 秀夫	1948年5月14日	2007年7月 岐阜北税務署長 2008年8月 税理士登録 2008年9月 石岡秀夫税理士事務所代表(現) 2012年6月 当社社外監査役 2015年6月 当社社外取締役(監査等委員)(現)	(注) 4	—

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	澁谷 英司	1957年 1 月28日	1979年10月 等松・青木監査法人(現 有限責任監査法人トーマツ)入社 1983年 3 月 公認会計士登録 2004年 5 月 監査法人トーマツ代表社員 2013年 7 月 日本公認会計士協会理事 2018年 8 月 澁谷英司公認会計士事務所所長(現) 税理士登録 2019年 6 月 日本公認会計士協会東海会岐阜県会会長 美濃窯業株式会社社外取締役(監査等委員)(現) 2021年 6 月 トランコム株式会社社外取締役(監査等委員)(現) 当社社外取締役(監査等委員)(現) 2022年 6 月 株式会社丸順(現 株式会社J-MAX)社外監査役(現)	(注) 4	—
計					1,325

- (注) 1. 取締役専務執行役員経営企画室長 DX・SX・管理本部・広報・情報コミュニケーション管掌田中信康は、代表取締役会長田中良幸の長男であります。
2. 取締役石岡秀夫及び取締役澁谷英司は、社外取締役であります。
3. 2023年 6 月28日開催の定時株主総会の終結の時から 1 年間であります。
4. 2023年 6 月28日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間であります。
5. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
- 委員長 水谷和則 委員 石岡秀夫 委員 澁谷英司
6. 当社は、業務執行の迅速化及び経営管理体制の強化を図り、経営基盤をより強固なものにすることを目的に執行役員制度を導入しております。
- 執行役員は、田中尚一郎、伊東寛、田中信康、由良直之、竹林啓路、千代耕司、衣斐輝臣、平野高光、渡辺数巳、宮川薫の10名で構成され、うち 7 名は取締役を兼任しております。

② 社外役員の状況

当社は社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、東京証券取引所の独立役員の確保に関する規定等を参考に、一般株主と利益相反が生じるおそれがないものとして 2 名を選任しております。石岡秀夫氏は当社と顧問税理士契約を締結しておりましたが、監査役(当時)就任をもって解約しており、その報酬は多額の金銭その他の財産に該当するものではなく、当社との間には特別な利害関係はありません。澁谷英司氏は、1995年から2003年の間、監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)の社員として当社担当でありましたが、現在は退任しております。また、現在、当社と有限責任監査法人トーマツとの監査契約はなく、当社との間には特別な利害関係はありません。なお、当社は石岡秀夫氏及び澁谷英司氏を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

③ 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は取締役会及び監査等委員会に出席するだけでなく、執行役員会にもオブザーバーとして出席し、常勤監査等委員から必要に応じて報告を受けるなど、当社の業務内容に精通しており、監査室や会計監査人とも連携して、監査等委員以外の取締役の職務執行を監視しております。

(3) 【監査の状況】

① 監査等委員会監査の状況

監査等委員会は3名（うち常勤1名、非常勤2名）の監査等委員である取締役で構成されております。各監査等委員は、監査等委員会で定めた監査等委員監査基準に準拠し、監査方針及び監査計画に基づき情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、監査等委員以外の取締役の職務執行の監査を行っております。なお、各監査等委員である取締役の経験及び能力は、次のとおりであります。

区分	氏名	経験及び能力
常勤監査等委員	水谷 和則	長年にわたり当社の新規開拓部門、ITソリューション部門、営業部門、製造部門を歴任し、幅広い経験と実績より、経営管理体制の監査・監督に有効な知見を有しております。
監査等委員	石岡 秀夫	税務署等勤務及び税理士として培われた税務、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
監査等委員	澁谷 英司	公認会計士及び税理士として培われた税務、財務及び会計に関する相当程度の見識を有しております。

当事業年度において当社は監査等委員会を月1回開催しており、個々の監査等委員である取締役の出席状況については、次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数	備考
水谷 和則	12	12	出席率 100%
石岡 秀夫	12	12	出席率 100%
澁谷 英司	12	12	出席率 100%

監査等委員会における具体的な検討事項として、監査計画の策定、監査報告書の作成、会計監査人の再任に関する評価、会計監査人の報酬等に関する同意等があります。

また、常勤監査等委員の活動として、内部監査部門からの実施状況等についての情報収集、会計監査人との意見交換及び情報収集、その他必要に応じて業務執行部門からの情報収集を行い、監査等委員会へ報告し監査の充実を図っております。

② 内部監査の状況

内部監査及び内部統制部門としては監査室が設置されており、専任者1名が年間を通じて内部監査の実施と財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況についてモニタリングをしております。また、監査室と監査等委員及び会計監査人は、必要に応じて相互の情報、意見等の交換を行うなど、相互連携を強化し、監査の実効性と効率性を高めております。なお、内部監査の報告について、代表取締役のみならず、取締役会及び監査等委員会にも直接報告を行っており、監査の実効性の確保を図っております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

監査法人東海会計社

b. 継続監査期間

5年間

c. 業務を執行した公認会計士

大島 幸一

牧原 徳充

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

会計監査人候補者から、監査法人の概要、監査の実施体制、監査報酬の見積額等について書面を入手し、面談、質問等を通じて、監査等委員会で定める会計監査人評価・選定基準に基づき検討を行うこととしております。なお、会計監査人に求められる専門性、独立性及び効率性を有し、当社の会計監査が適正に行われる内部管理体制、さらには監査報酬の水準等を総合的に勘案して選定するものであります。

f. 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

監査法人東海会計社につきましては、監査法人の概要、品質管理体制及び独立性に問題はなく、監査計画は、会社の事業内容に対応する不正リスクに配慮した内容であると判断しております。また、監査チームの編成は、合理的な内容であり、さらには、監査報酬見積額の算定根拠は合理的で適切であると判断しております。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	18,000	—	18,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	18,000	—	18,000	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a.を除く）

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査法人の監査方針、監査内容、監査日数及び監査業務に携わる人数等を勘案して監査法人と協議のうえ、監査等委員会の同意を得て決定しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等を検討し、適切と判断したため、その報酬の額について、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a. 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針は、以下のとおりであります。

当社の取締役（監査等委員である者を除く）の報酬については、固定報酬としての「月額報酬」と退任時に支給する「退職慰労金」で構成されております。よって業績連動報酬等や非金銭報酬等を支給していないため、業績指標に連動しない報酬等が個人別の報酬等の額の全部を占めることとなります。その報酬は、経済環境、業界動向及び業績を勘案し、各取締役（監査等委員である者を除く）が担当する職務の質及び量に応じて算定し、指名・報酬委員会の審議及び答申を踏まえ、取締役会で決議します。

取締役（監査等委員）の報酬についても、同じく固定報酬としての「月額報酬」と退任時に支給する「退職慰労金」で構成されております。各取締役（監査等委員）が担当する職務の質及び量に応じてその報酬額を取締役（監査等委員）の協議により決定します。

退職慰労金につきましては、「役員退職慰労金内規」において定めており、役位、職責、在任期間等を勘案し、業績を考慮のうえ算定し、取締役（監査等委員である者を除く）については、指名・報酬委員会の審議及び答申を踏まえ、取締役会で決議します。取締役（監査等委員）については取締役（監査等委員）の協議により決定します。

b. 取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役（監査等委員である者を除く）の報酬（固定報酬）限度額は、2015年6月25日開催の第70回定時株主総会において年額200,000千円以内と決議されております（使用人兼務取締役の使用人分給与は含んでおりません）。当該決議時の取締役は13名であります。

取締役（監査等委員）の報酬（固定報酬）限度額は、2015年6月25日開催の第70回定時株主総会において年額20,000千円以内と決議されております。当該決議時の取締役（監査等委員）は3名であります。

c. 当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由及び取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容については、株主総会で承認された報酬限度額の範囲内で、指名・報酬委員会が決定方針に定める内容と整合性を含む多角的な審議を行ったうえで答申を行い、取締役会において決議していることから、取締役会は、その内容が決定方針に沿うものであると判断しております。また、取締役の個人別の報酬等の決定は、指名・報酬委員会の審議及び答申を踏まえ、取締役会が行っており、委任しておりません。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労引当金 繰入額	
取締役 (監査等委員及び社外 取締役を除く)	94,659	84,650	—	10,009	8
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	6,352	6,000	—	352	1
社外役員	6,805	6,450	—	355	2

③ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動又は配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式とし、事業活動を行っていくうえで様々な企業との協力関係を構築する中で、取引関係の安定維持・強化、安定的な資金調達等により当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図ることを目的に、取得及び保有をしているものを純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）としております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、事業戦略上の必要性、取引・協業関係の維持・強化を保有の目的として、当社の企業価値の向上に資するものを政策保有株式と定義し、それ以外は保有しない方針です。

保有する株式銘柄、株式数などについては、毎年、保有の合理性を確認し、取締役会で検証しております。保有の合理性については、個別銘柄毎に保有目的や株式保有に伴う影響と収益性、資本コストなどを勘案のうえ、当社の保有方針に則り判断しております。

具体的には、個別銘柄毎の当初投資額に対して、その配当金と当社との年間取引高に対する粗利額の合計金額の割合が、2期連続して当社のROEを下回った銘柄については縮減検討対象とします。取締役会で検証の結果、保有の合理性が認められないと判断した株式については、市場への影響を考慮しつつ売却を進めます。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	13	53,833
非上場株式以外の株式	83	3,453,700

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	11	26,389	安定的な関係構築のために、入会している取引先持株会で購入や、株式累積投資によりそれぞれ増加しました。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	5	2,199

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果(注2) 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
イビデン(株)	155,765	153,846	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	819,326	930,772		
(株)トーカイ	123,752	122,054	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	244,905	210,422		
(株)文溪堂	200,031	199,804	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	228,235	239,565		
(株)大垣共立銀行	105,069	103,652	重要な取引金融機関かつ印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。株式累積投資により増加しました。	有
	187,653	197,352		
(株)電算システムホールディングス	60,600	60,600	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注4)
	160,468	156,590		
太平洋工業(株)	135,342	134,116	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	156,185	127,142		
未来工業(株)	85,641	84,020	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	152,098	131,996		
アイカ工業(株)	39,405	38,977	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	無
	119,594	116,503		
東京窯業(株)	335,000	335,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	110,550	98,490		
セイノーホールディングス(株)	69,700	69,700	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	101,762	77,645		
日本電信電話(株)	20,400	20,400	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	80,824	72,318		
(株)SCREENホールディングス	6,200	6,200	重要な機材・機器等の購入先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	72,230	76,632		
ソニーグループ(株)	5,224	5,224	印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	62,609	66,501		
(株)トーエネック	16,818	16,347	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	無
	57,349	53,700		
リンナイ(株)	5,400	5,400	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	52,407	49,518		
大同メタル工業(株)	99,709	94,790	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	無
	50,951	54,125		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果(注2) 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
中部鋼鉄(株)	23,347	22,772	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	無
	50,548	19,561		
(株)十六フィナンシャルグループ	17,880	17,880	重要な取引金融機関かつ印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注5)
	50,493	38,817		
(株)大光	80,400	80,400	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	48,561	57,325		
トヨタ自動車(株)	25,040	25,040	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	47,075	55,651		
アイホン(株)	18,372	18,372	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	37,497	37,644		
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	8,583	8,583	損害保険の主要引受先かつ印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注6)
	35,241	34,143		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	33,249	33,249	重要な取引金融機関かつ印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	28,191	25,279		
(株)ノリタケカンパニーリミテド	5,838	5,838	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	26,796	26,037		
リゾートトラスト(株)	12,384	12,384	印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	26,117	25,919		
(株)SOMPOホールディングス	4,750	4,750	損害保険の主要引受先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注7)
	24,947	25,559		
三菱HCキャピタル(株)	36,000	36,000	重要な取引金融機関の一つであり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	24,624	20,520		
(株)堀場製作所	3,000	3,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	23,730	20,100		
(株)あいちフィナンシャルグループ(注11)	10,015	10,015	重要な取引金融機関かつ印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注8)
	21,542	16,013		
(株)平和堂	10,000	10,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	20,350	18,960		
(株)ヒマラヤ	20,000	20,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	18,800	19,740		
CKD(株)	8,594	8,594	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	18,477	16,199		
富士フィルムホールディングス(株)	2,662	2,662	重要な原材料等の購入先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無(注9)
	17,830	19,970		
日本ヒューム(株)	21,525	21,525	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	16,143	14,873		
(株)小森コーポレーション	16,080	14,411	重要な機材・機器等の購入先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。入会している取引先持株会で購入したため増加しました。	有
	15,936	10,477		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果(注2) 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	40,060	40,060	重要な取引金融機関の一つであり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	14,661	16,144		
東京海上ホールディングス(株)	5,130	1,710	損害保険の主要引受先かつ印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。株式分割により増加しました。	無(注10)
	13,066	12,188		
大王製紙(株) (注3)	11,500	11,500	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	11,891	18,204		
日本碍子(株) (注3)	6,713	6,713	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	11,761	11,767		
(株)バローホールディングス (注3)	5,768	5,768	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	11,109	12,199		
キリンホールディングス(株) (注3)	5,250	5,250	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	11,004	9,602		
三菱マテリアル(株) (注3)	4,900	4,900	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	10,569	10,500		
日本紙パルプ商事(株)(注3)	2,000	2,000	重要な原材料等の購入先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	有
	10,300	7,760		
パナソニックホールディングス(株)(注3)	7,935	7,935	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しておりますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	9,379	9,430		
大日本印刷(株) (注3)	2,500	2,500	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	9,262	7,195		
(株)みずほフィナンシャルグループ(注3)	4,844	4,844	重要な取引金融機関かつ印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	9,097	7,590		
(株)C Lホールディングス (注3)	10,000	10,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	8,480	11,140		
エクシオグループ(株)(注3)	3,399	3,399	印刷物等の新規取引を目指す重要な企業であり、同社との良好な関係構築のため保有しています。	無
	8,147	7,685		
東邦ガス(株) (注3)	2,698	2,698	印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	6,645	7,352		
東急不動産ホールディングス(株) (注3)	10,000	10,000	印刷物等の新規取引を目指す重要な企業であり、同社との良好な関係構築のため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	6,350	6,740		
マクニカホールディングス(株) (注3)(注12)	1,650	1,650	印刷物等の新規取引を目指す重要な企業であり、同社との良好な関係構築のため保有しています。	無
	6,204	4,359		
THK(株) (注3)	2,000	2,000	印刷物等の新規取引を目指す重要な企業であり、同社との良好な関係構築のため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	6,110	5,442		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果(注2) 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
カルビー(株) (注3)	2,000	2,000	印刷物等の取引増加が見込まれる重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	5,542	4,710		
T I S(株) (注3)	1,545	1,545	印刷物等の新規取引を目指す重要な企業であり、同社との良好な関係構築のため保有しています。	無
	5,392	4,444		
(株)ニチレイ (注3)	2,000	2,000	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	5,368	4,738		
(株)三井住友フィ ナンシャルグル ープ(注3)	1,000	1,000	重要な取引金融機関であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	5,298	3,907		
(株)セリア (注3)	2,000	2,000	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	5,244	5,546		
(株)三越伊勢丹ホ ールディングス (注3)	3,400	*	印刷物等の重要な取引先であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	5,038	*		
伊藤ハム米久ホ ールディングス (株)(注3)	6,984	6,984	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	4,888	4,532		
中部電力(株) (注3)	3,327	3,327	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有しています。	無
	4,654	4,202		
アサヒグループ ホールディング ス(株)(注3)	*	921	印刷物等の取引が期待される重要な企業であり、同社との良好な取引関係の維持・強化を図るため保有していますが、当社条件により縮減検討対象となりましたので、取締役会での検証を実施します。	無
	*	4,108		

- (注) 1. 「*」は、当該銘柄の貸借対照表計上額が当社の資本金額の100分の1以下であり、かつ貸借対照表計上額の大きい順の60銘柄に該当しないために記載を省略していることを示しております。
2. 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であります。保有の合理性は「a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載のとおりを検証しております。
3. 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上位60銘柄について記載しております。
4. (株)電算システムホールディングスは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)電算システムは当社株式を保有しております。
5. (株)十六フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)十六銀行は当社株式を保有しております。
6. MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)は当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である三井住友海上火災保険(株)は当社株式を保有しております。
7. (株)SOMPOホールディングスは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である損害保険ジャパン(株)は当社株式を保有しております。
8. (株)あいちフィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)中京銀行は当社株式を保有しております。
9. 富士フィルムホールディングス(株)は当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)は当社株式を保有しております。
10. 東京海上ホールディングス(株)は当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である東京海上日動火災保険(株)は当社株式を保有しております。

11. ㈱中京銀行は2022年10月3日付で、㈱愛知銀行と共同株式移転の方法により両社の完全親会社となる㈱あいちフィナンシャルグループを設立しております。この株式移転に伴い、㈱中京銀行の普通株式1株につき、㈱あいちフィナンシャルグループの普通株式1株の割合で割当交付されております。
12. マクニカ・富士エレホールディングス㈱は2022年8月1日付で、マクニカホールディングス㈱に商号変更しております。

- ③ 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人東海会計社による監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、適時、会計基準等の内容や変更等についての情報の収集を行っております。また、監査法人等の主催する研修にも参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年 3 月31日)	当連結会計年度 (2023年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,283,680	1,966,612
受取手形	※1 604,565	※1 522,924
売掛金	※1 3,221,210	※1 3,196,191
契約資産	※1 76	※1 347
電子記録債権	※1 711,041	※1 671,793
商品及び製品	93,310	91,778
仕掛品	405,779	464,571
原材料及び貯蔵品	91,334	125,871
その他	148,780	112,409
貸倒引当金	△3,631	△9,984
流動資産合計	6,556,147	7,142,516
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※3 7,065,810	※3 7,118,955
減価償却累計額	△4,527,919	△4,682,552
建物及び構築物（純額）	※2 2,537,891	※2 2,436,402
機械装置及び運搬具	※3 12,479,834	※3 12,303,686
減価償却累計額	△10,144,093	△10,256,168
機械装置及び運搬具（純額）	2,335,741	2,047,517
土地	※2, ※3 3,283,192	※2, ※3 3,283,192
建設仮勘定	-	96,525
その他	※3 713,779	※3 655,385
減価償却累計額	△579,245	△553,160
その他（純額）	134,534	102,225
有形固定資産合計	8,291,359	7,965,863
無形固定資産	74,888	70,406
投資その他の資産		
投資有価証券	3,555,468	3,650,196
繰延税金資産	526,730	479,096
その他	309,879	264,096
貸倒引当金	△25,922	△21,062
投資その他の資産合計	4,366,156	4,372,326
固定資産合計	12,732,404	12,408,596
資産合計	19,288,551	19,551,112

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,845,464	1,902,095
電子記録債務	267,481	305,096
短期借入金	※2 1,530,000	※2 1,530,000
1年内返済予定の長期借入金	7,200	※2 59,517
未払法人税等	99,563	60,327
賞与引当金	418,454	449,165
その他	※4 1,089,893	※4 1,016,252
流動負債合計	5,258,057	5,322,454
固定負債		
社債	※2 100,000	※2 100,000
長期借入金	※2 120,200	60,683
役員退職慰労引当金	215,665	226,908
退職給付に係る負債	2,847,229	2,826,555
その他	20,147	12,312
固定負債合計	3,303,241	3,226,458
負債合計	8,561,299	8,548,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,236,114	1,236,114
資本剰余金	1,049,534	1,049,534
利益剰余金	8,067,191	8,286,597
自己株式	△1,162,491	△1,162,491
株主資本合計	9,190,349	9,409,755
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,403,906	1,422,476
為替換算調整勘定	1,867	10,137
退職給付に係る調整累計額	48,083	74,376
その他の包括利益累計額合計	1,453,857	1,506,991
非支配株主持分	83,045	85,453
純資産合計	10,727,252	11,002,199
負債純資産合計	19,288,551	19,551,112

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
売上高	※1 16,603,865	※1 17,148,448
売上原価	※2 13,033,016	※2 13,691,090
売上総利益	3,570,848	3,457,358
販売費及び一般管理費	※3 3,106,970	※3 3,216,615
営業利益	463,878	240,742
営業外収益		
受取利息	1,059	1,482
受取配当金	77,557	90,245
不動産賃貸料	64,781	65,613
保険解約返戻金	8,133	-
その他	16,818	25,063
営業外収益合計	168,350	182,405
営業外費用		
支払利息	9,024	8,506
不動産賃貸費用	16,988	17,182
その他	60	29
営業外費用合計	26,073	25,718
経常利益	606,155	397,429
特別利益		
固定資産売却益	※4 24,327	※4 23,113
投資有価証券売却益	6,549	1,388
助成金収入	※5 58,551	-
受取保険金	-	33,449
過年度消費税等還付額	-	14,220
特別利益合計	89,428	72,171
特別損失		
固定資産廃棄損	※6 6,485	※6 758
投資有価証券売却損	-	2
投資有価証券評価損	87,729	-
会員権評価損	400	-
会員権貸倒引当金繰入額	4,860	-
新型コロナウイルス感染症による損失	※7 62,329	-
製品保証費	※8 207,437	-
特別損失合計	369,241	760
税金等調整前当期純利益	326,342	468,839
法人税、住民税及び事業税	127,266	110,768
法人税等調整額	△75,547	35,900
法人税等合計	51,718	146,668
当期純利益	274,624	322,171
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	9,904	△5,712
親会社株主に帰属する当期純利益	264,720	327,883

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
当期純利益	274,624	322,171
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△65,054	18,570
為替換算調整勘定	△390	17,596
退職給付に係る調整額	18,941	26,292
その他の包括利益合計	※1 △46,504	※1 62,459
包括利益	228,119	384,630
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	218,422	381,017
非支配株主に係る包括利益	9,697	3,613

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,236,114	1,049,534	7,910,949	△1,162,491	9,034,107
当期変動額					
剰余金の配当			△108,478		△108,478
親会社株主に 帰属する当期純利益			264,720		264,720
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	-	156,241	-	156,241
当期末残高	1,236,114	1,049,534	8,067,191	△1,162,491	9,190,349

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,468,961	2,050	29,142	1,500,155	74,448	10,608,711
当期変動額						
剰余金の配当						△108,478
親会社株主に 帰属する当期純利益						264,720
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	△65,054	△183	18,941	△46,297	8,596	△37,700
当期変動額合計	△65,054	△183	18,941	△46,297	8,596	118,541
当期末残高	1,403,906	1,867	48,083	1,453,857	83,045	10,727,252

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,236,114	1,049,534	8,067,191	△1,162,491	9,190,349
当期変動額					
剰余金の配当			△108,478		△108,478
親会社株主に 帰属する当期純利益			327,883		327,883
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	-	219,405	-	219,405
当期末残高	1,236,114	1,049,534	8,286,597	△1,162,491	9,409,755

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,403,906	1,867	48,083	1,453,857	83,045	10,727,252
当期変動額						
剰余金の配当						△108,478
親会社株主に 帰属する当期純利益						327,883
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	18,570	8,270	26,292	53,133	2,408	55,541
当期変動額合計	18,570	8,270	26,292	53,133	2,408	274,947
当期末残高	1,422,476	10,137	74,376	1,506,991	85,453	11,002,199

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	326,342	468,839
減価償却費	587,550	686,190
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	18,953	1,492
受取利息及び受取配当金	△78,616	△91,727
支払利息	9,024	8,506
有形固定資産売却損益 (△は益)	△24,327	△23,113
投資有価証券売却損益 (△は益)	△6,549	△1,385
投資有価証券評価損益 (△は益)	87,729	-
会員権評価損	400	-
固定資産廃棄損	6,485	758
助成金収入	△58,551	-
新型コロナウイルス感染症による損失	62,329	-
製品保証費	207,437	-
受取保険金	-	△33,449
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△183,926	145,636
棚卸資産の増減額 (△は増加)	55,391	△91,796
仕入債務の増減額 (△は減少)	39,344	94,246
預り金の増減額 (△は減少)	△1,094	6,984
賞与引当金の増減額 (△は減少)	10,154	30,711
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△89,685	11,243
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	24,770	16,844
未払金の増減額 (△は減少)	18,753	△1,579
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△61,532	159,393
その他	172,568	△181,401
小計	1,122,951	1,206,393
利息及び配当金の受取額	78,191	91,856
利息の支払額	△8,916	△8,499
助成金の受取額	81,633	-
新型コロナウイルス感染症による損失の支払額	△74,385	-
製品保証費の支払額	△207,437	-
保険金の受取額	-	33,449
法人税等の支払額	△77,418	△156,779
法人税等の還付額	29,534	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	944,153	1,166,419
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△17,260	△10,137
有形固定資産の取得による支出	△1,552,087	△390,584
有形固定資産の売却による収入	24,327	32,000
無形固定資産の取得による支出	△22,738	△27,831
投資有価証券の取得による支出	△26,962	△76,391
投資有価証券の売却及び償還による収入	8,699	2,199
その他	△8,618	5,124
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,594,640	△465,621

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	280,000	280,000
短期借入金の返済による支出	△380,000	△280,000
長期借入れによる収入	50,000	-
長期借入金の返済による支出	△57,200	△7,200
社債の償還による支出	△50,000	-
リース債務の返済による支出	△25,680	△15,758
配当金の支払額	△108,579	△108,276
非支配株主への配当金の支払額	△1,100	△1,205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△292,560	△132,440
現金及び現金同等物に係る換算差額	△390	17,596
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△943,437	585,954
現金及び現金同等物の期首残高	2,152,113	1,208,676
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,208,676	※1 1,794,630

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

日本イベント企画株式会社

Sun Messe (Thailand) Co., Ltd.

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Sun Messe (Thailand) Co., Ltd. の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、2022年12月31日現在の財務諸表を使用し、当連結会計年度末までの間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

② 棚卸資産

商品及び製品、仕掛品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、主に退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

① 印刷事業

印刷事業は、一般商業印刷、包装印刷、出版印刷の、企画、デザイン、製版、印刷、製本及びこれらに関連する付帯事業を行っており、製品の販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時に収益を認識しております。

② イベント事業

イベント事業は、各種イベントの企画、運営を行っており、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識しております。進捗度の測定は、期末日までに発生した原価が、予想される原価の合計に占める割合に基づいて行っております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な現金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。

(重要な会計上の見積り)

固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	8,291,359	7,965,863
無形固定資産	74,888	70,406

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

有形固定資産及び無形固定資産については、減損の兆候があると認められた場合、将来の事業計画に基づくキャッシュ・フロー等を見積りを基礎として、減損損失の処理の要否を判定しております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、計画等の見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において、有形固定資産及び無形固定資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準適用指針第27-3項に従って、前連結会計年度に係るものについては記載していません。

(連結貸借対照表関係)

※1. 受取手形、売掛金、契約資産及び電子記録債権のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
受取手形	604,565千円	522,924千円
売掛金	3,221,210千円	3,196,191千円
契約資産	76千円	347千円
電子記録債権	711,041千円	671,793千円

※2. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
建物及び構築物(純額)	206,221千円	189,766千円
土地	1,864,845千円	1,864,845千円
計	2,071,067千円	2,054,612千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
短期借入金	980,000千円	980,000千円
1年内返済予定の長期借入金	一千円	50,000千円
社債	100,000千円	100,000千円
長期借入金	50,000千円	一千円
計	1,130,000千円	1,130,000千円

※3. 国庫補助金等により連結貸借対照表計上額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
建物及び構築物	10,629千円	10,629千円
機械装置及び運搬具	148,333千円	148,333千円
土地	15,375千円	15,375千円
その他	27千円	27千円
計	174,365千円	174,365千円

※4. その他のうち、契約負債の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
前受金	11,002千円	11,286千円

(連結損益計算書関係)

※1. 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

※2. 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損（△は戻入益）が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
4,915千円	△5,766千円

※3. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
運賃及び荷造費	578,219千円	603,823千円
貸倒引当金繰入額	14,093千円	6,352千円
給料及び手当	1,210,982千円	1,360,885千円
賞与引当金繰入額	149,054千円	171,651千円
退職給付費用	65,912千円	59,957千円
役員退職慰労引当金繰入額	17,920千円	11,243千円

※4. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械装置及び運搬具	24,327千円	23,113千円
計	24,327千円	23,113千円

※5. 助成金収入の内容は、主に、新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金等であります。

※6. 固定資産廃棄損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物及び構築物	1,200千円	349千円
機械装置及び運搬具	4,493千円	179千円
その他	791千円	229千円
計	6,485千円	758千円

※7. 新型コロナウイルス感染症による損失の内容は、当社グループにおいて感染拡大の影響を受け、操業度の低下に伴い雇用調整を実施した休業補償費であります。

※8. 製品保証費の内容は、日本年金機構様の年金振込通知書の誤送付に係るやり直し等の負担額であります。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△101,621千円	17,765千円
組替調整額	6,549千円	1,385千円
税効果調整前	△95,072千円	19,151千円
税効果額	30,017千円	△580千円
その他有価証券評価差額金	△65,054千円	18,570千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△390千円	17,596千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	33,740千円	47,891千円
組替調整額	△6,713千円	△10,373千円
税効果調整前	27,027千円	37,518千円
税効果額	△8,086千円	△11,225千円
退職給付に係る調整額	18,941千円	26,292千円
その他の包括利益合計	△46,504千円	62,459千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	17,825	—	—	17,825
合計	17,825	—	—	17,825
自己株式				
普通株式	2,328	—	—	2,328
合計	2,328	—	—	2,328

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年 5 月14日 取締役会	普通株式	61,987	4.0	2021年 3 月31日	2021年 6 月 8 日
2021年11月 4 日 取締役会	普通株式	46,490	3.0	2021年 9 月30日	2021年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年 5 月20日 取締役会	普通株式	61,987	利益剰余金	4.0	2022年 3 月31日	2022年 6 月10日

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	17,825	—	—	17,825
合計	17,825	—	—	17,825
自己株式				
普通株式	2,328	—	—	2,328
合計	2,328	—	—	2,328

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月20日 取締役会	普通株式	61,987	4.0	2022年3月31日	2022年6月10日
2022年11月4日 取締役会	普通株式	46,490	3.0	2022年9月30日	2022年12月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年5月12日 取締役会	普通株式	61,987	利益剰余金	4.0	2023年3月31日	2023年6月12日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金	1,283,680千円	1,966,612千円
その他(証券会社預け金)	50,000千円	一千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	△125,004千円	△171,981千円
現金及び現金同等物	1,208,676千円	1,794,630千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

・有形固定資産

主として、生産設備(機械及び装置)であります。

②リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等の安全性の高い金融資産に限定し、また、資金調達については銀行借入や社債発行による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金、契約資産及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、債権管理規程に従い、営業本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して、保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務並びに未払法人税等は、4ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及び社債のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、社債及び長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、基本的にリスクの低い短期のものに限定しております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2022年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券(*2)	3,501,548	3,501,548	—
資産計	3,501,548	3,501,548	—
(1) 社債(1年内償還予定の社債を含む)	100,000	99,788	△211
(2) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	127,400	127,364	△35
負債計	227,400	227,152	△247

(※1) 「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「契約資産」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「短期借入金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(※2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は、以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)
非上場株式	53,920千円

当連結会計年度(2023年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券(*2)	3,596,275	3,596,275	—
資産計	3,596,275	3,596,275	—
(1) 社債(1年内償還予定の社債を含む)	100,000	99,713	△286
(2) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	120,200	120,196	△3
負債計	220,200	219,910	△289

(*1) 「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「契約資産」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「短期借入金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は、以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	53,920千円

(注) 1. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,269,691	—	—	—
受取手形	604,565	—	—	—
売掛金	3,221,210	—	—	—
契約資産	76	—	—	—
電子記録債権	711,041	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	—	—	—	—
合計	5,806,585	—	—	—

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,939,937	—	—	—
受取手形	522,924	—	—	—
売掛金	3,196,191	—	—	—
契約資産	347	—	—	—
電子記録債権	671,793	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	—	—	—	—
合計	6,331,194	—	—	—

(注) 2. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,530,000	—	—	—	—	—
社債	—	—	100,000	—	—	—
長期借入金	7,200	97,200	7,200	7,200	7,200	1,400
リース債務	15,758	7,899	1,755	—	—	—
合計	1,552,958	105,099	108,955	7,200	7,200	1,400

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,530,000	—	—	—	—	—
社債	—	100,000	—	—	—	—
長期借入金	59,517	60,683	—	—	—	—
リース債務	7,899	1,755	—	—	—	—
合計	1,597,416	162,438	—	—	—	—

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを使用して算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	3,401,132	—	—	3,401,132
資産計	3,401,132	—	—	3,401,132

(注) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）第26項の経過措置を適用した投資信託等については、上記表には含めておりません。連結貸借対照表における当該投資信託等の金額は金融資産100,415千円であります。

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	3,453,680	—	—	3,453,680
その他	—	142,595	—	142,595
資産計	3,453,680	142,595	—	3,596,275

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債	—	99,788	—	99,788
長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	—	127,364	—	127,364
負債計	—	227,152	—	227,152

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債	—	99,713	—	99,713
長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	—	120,196	—	120,196
負債計	—	219,910	—	219,910

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

投資信託は、公表されている基準価格等によっており、レベル2の時価に分類しております。

社債

元利金の合計額を、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	3,124,666	1,149,310	1,975,355
その他	100,415	99,960	455
小計	3,225,081	1,249,270	1,975,810
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	276,466	283,381	△6,914
小計	276,466	283,381	△6,914
合計	3,501,548	1,532,652	1,968,895

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	3,205,072	1,193,733	2,011,338
その他	50,000	50,000	0
小計	3,255,072	1,243,733	2,011,338
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	248,627	264,534	△15,906
その他	92,575	99,960	△7,384
小計	341,203	364,494	△23,291
合計	3,596,275	1,608,228	1,988,047

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	8,699	6,549	—
合計	8,699	6,549	—

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	2,199	1,388	2
合計	2,199	1,388	2

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券について87,729千円(上場株式87,403千円、非上場株式326千円)減損処理を行っております。

なお、当該株式の減損にあたっては、時価が取得原価の30%以上下落し回復可能性がないと判断した場合には、原則として減損処理しており、市場価格のない非上場株式については、実質価額が取得原価の50%以上下落し回収可能性がないと判断した場合には、減損処理しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度である退職一時金制度及び確定拠出年金制度を設けております。

なお、連結子会社が有する確定給付型の制度である退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,823,442千円	2,822,157千円
勤務費用	141,601千円	137,783千円
利息費用	2,823千円	5,644千円
数理計算上の差異の発生額	△33,740千円	△47,891千円
退職給付の支払額	△111,969千円	△110,805千円
退職給付債務の期末残高	2,822,157千円	2,806,888千円

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,822,157千円	2,806,888千円
連結貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	2,822,157千円	2,806,888千円
退職給付に係る負債	2,822,157千円	2,806,888千円
連結貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	2,822,157千円	2,806,888千円

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	141,601千円	137,783千円
利息費用	2,823千円	5,644千円
数理計算上の差異の費用処理額	△6,713千円	△10,373千円
確定給付制度に係る退職給付費用	137,711千円	133,054千円

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
数理計算上の差異	27,027千円	△37,518千円
合計	27,027千円	△37,518千円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
未認識数理計算上の差異	68,612千円	△106,130千円
合計	68,612千円	△106,130千円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
割引率	0.2%	0.4%
予想昇給率	1.6%	1.6%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	26,044千円	25,071千円
退職給付費用	△972千円	△5,405千円
退職給付に係る負債の期末残高	25,071千円	19,666千円

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	25,071千円	19,666千円
連結貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	25,071千円	19,666千円
退職給付に係る負債	25,071千円	19,666千円
連結貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	25,071千円	19,666千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	△972千円	当連結会計年度	△5,405千円
----------------	---------	--------	---------	----------

4. 確定拠出制度

当社及び一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度35,149千円、当連結会計年度34,448千円であります。

5. 複数事業主制度

当社及び一部の連結子会社の加入していた中部印刷工業厚生年金基金は、2016年5月17日開催の代議員会において基金解散認可申請を行うことを決議し、2016年7月27日付で厚生労働大臣の解散認可を得て解散となりました。当連結会計年度末現在、清算手続中ではありますが、当基金の解散による追加負担額の発生は見込まれておりません。

なお、確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
土地減損損失	459,834千円	459,834千円
投資有価証券評価損	39,790千円	39,790千円
会員権評価損	31,332千円	25,019千円
貸倒引当金	8,842千円	9,289千円
未払社会保険料(賞与)	26,418千円	21,780千円
未払事業税	11,438千円	11,070千円
未払賞与	41,321千円	一千円
賞与引当金	125,547千円	135,091千円
退職給付に係る負債	852,375千円	845,954千円
役員退職慰労引当金	64,407千円	67,614千円
その他	30,401千円	24,651千円
繰延税金資産小計	1,691,711千円	1,640,096千円
評価性引当額(注)	△599,991千円	△595,430千円
繰延税金資産合計	1,091,719千円	1,044,666千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△564,989千円	△565,570千円
繰延税金負債合計	△564,989千円	△565,570千円
繰延税金資産の純額	526,730千円	479,096千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	29.9%	—
(調 整)		
交際費・寄付金等永久に損金に算入されない項目	2.9%	—
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.4%	—
住民税均等割等	3.5%	—
評価性引当額の増減	△19.0%	—
法人税額控除	△1.0%	—
連結子会社の適用税率差異	0.4%	—
その他	0.5%	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	15.8%	—

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社では、東京都において、支店ビルの一部を賃貸用として使用しており、その他賃貸用の駐車場等を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は46,942千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は48,203千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	606,470	604,717
	期中増減額	△1,752	△1,719
	期末残高	604,717	602,998
期末時価		802,937	884,242

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少は減価償却費(1,572千円)であります。

当連結会計年度の主な減少は減価償却費(1,539千円)であります。

3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額等であります。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報については、「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 3. 会計方針に関する事項(5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報
前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権		
受取手形	519,982	604,565
売掛金	3,144,937	3,221,210
電子記録債権	688,048	711,041
	4,352,968	4,536,817
契約資産	—	76
契約負債		
前受金	17,335	11,002
	17,335	11,002

(注) 1. 契約負債は、主に、請負契約における顧客からの前受金であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。なお、当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、13,520千円であります。

2. 前受金は連結貸借対照表上、流動負債の「その他」に含まれております。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権		
受取手形	604,565	522,924
売掛金	3,221,210	3,196,191
電子記録債権	711,041	671,793
	4,536,817	4,390,910
契約資産	76	347
契約負債		
前受金	11,002	11,286
	11,002	11,286

(注) 1. 契約負債は、主に、請負契約における顧客からの前受金であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。なお、当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、7,763千円であります。

2. 前受金は連結貸借対照表上、流動負債の「その他」に含まれております。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、一般商業印刷物、包装印刷物、出版印刷物で構成される「印刷事業」と、イベントの企画、運営を行う「イベント事業」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	印刷事業	イベント事業	合計		
売上高					
一般商業印刷物	11,688,986	—	11,688,986	—	11,688,986
包装印刷物	2,863,831	—	2,863,831	—	2,863,831
出版印刷物	1,402,169	—	1,402,169	—	1,402,169
イベント	—	648,878	648,878	—	648,878
顧客との契約から生じる収益	15,954,987	648,878	16,603,865	—	16,603,865
外部顧客への売上高	15,954,987	648,878	16,603,865	—	16,603,865
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,603	1,839	7,442	△7,442	—
計	15,960,590	650,717	16,611,308	△7,442	16,603,865
セグメント利益	363,722	96,505	460,228	3,650	463,878
セグメント資産	18,726,956	563,797	19,290,754	△2,202	19,288,551
その他の項目					
減価償却費	578,262	973	579,236	458	579,694
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,640,911	3,219	1,644,130	—	1,644,130

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額3,650千円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額△2,202千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	印刷事業	イベント事業	合計		
売上高					
一般商業印刷物	12,248,428	—	12,248,428	—	12,248,428
包装印刷物	2,710,104	—	2,710,104	—	2,710,104
出版印刷物	1,157,574	—	1,157,574	—	1,157,574
イベント	—	1,032,341	1,032,341	—	1,032,341
顧客との契約から生じる収益	16,116,107	1,032,341	17,148,448	—	17,148,448
外部顧客への売上高	16,116,107	1,032,341	17,148,448	—	17,148,448
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,667	1,934	12,602	△12,602	—
計	16,126,774	1,034,276	17,161,051	△12,602	17,148,448
セグメント利益	111,477	125,524	237,001	3,740	240,742
セグメント資産	18,936,599	616,962	19,553,561	△2,448	19,551,112
その他の項目					
減価償却費	676,680	1,176	677,857	367	678,225
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	365,585	—	365,585	—	365,585

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額3,740千円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額△2,448千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	一般商業印刷物	包装印刷物	出版印刷物	イベント	合計
外部顧客への売上高	11,688,986	2,863,831	1,402,169	648,878	16,603,865

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	一般商業印刷物	包装印刷物	出版印刷物	イベント	合計
外部顧客への売上高	12,248,428	2,710,104	1,157,574	1,032,341	17,148,448

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	686.86円	704.45円
1株当たり当期純利益	17.08円	21.16円

(注) 1. 表示単位未満の端数は四捨五入しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	264,720	327,883
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	264,720	327,883
普通株式の期中平均株式数(株)	15,496,888	15,496,888

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	10,727,252	11,002,199
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	83,045	85,453
(うち非支配株主持分(千円))	(83,045)	(85,453)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	10,644,207	10,916,746
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	15,496,888	15,496,888

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
サンメッセ(株)	第7回無担保社債	2019年 7月25日	100,000	100,000 (—)	0.23	無担保社債 (注) 1	2024年 7月25日
合計	—	—	100,000	100,000 (—)	—	—	—

(注) 1. 本社債に対しては銀行保証について担保が付されております。

2. () 内書は1年以内の償還予定額であります。

3. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
—	100,000	—	—	—

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,530,000	1,530,000	0.5	—
1年以内に返済予定の長期借入金	7,200	59,517	0.8	—
1年以内に返済予定のリース債務	15,758	7,899	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	120,200	60,683	—	2024年4月22日～ 2027年6月21日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	9,655	1,755	—	2024年4月4日～ 2024年9月20日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	1,682,813	1,659,855	—	—

(注) 1. 平均利率は期末日現在の利率及び借入金残高より算定した加重平均利率であります。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金のうち、70,200千円は連結子会社の新型コロナウイルス感染症特別貸付制度による特別金利の借入であります。

4. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	60,683	—	—	—
リース債務	1,755	—	—	—

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	4, 205, 723	8, 040, 602	12, 620, 405	17, 148, 448
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	123, 076	156, 549	328, 428	468, 839
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	79, 241	97, 921	218, 423	327, 883
1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	5. 11	6. 32	14. 09	21. 16

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益 (円)	5. 11	1. 21	7. 78	7. 06

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当事業年度 (2023年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,145,802	1,592,428
受取手形	604,565	522,924
電子記録債権	711,041	671,793
売掛金	※1 2,682,603	※1 2,829,491
製品	86,988	88,801
仕掛品	405,779	464,571
原材料及び貯蔵品	91,266	125,711
前払費用	18,218	18,131
その他	※1 120,521	※1 77,331
貸倒引当金	△3,631	△9,984
流動資産合計	5,863,155	6,381,201
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2, ※3 2,463,894	※2, ※3 2,370,627
構築物	73,996	65,775
機械及び装置	※3 2,306,559	※3 2,022,596
車両運搬具	23,506	21,012
工具、器具及び備品	※3 110,168	※3 92,663
土地	※2, ※3 3,283,192	※2, ※3 3,283,192
リース資産	23,530	8,939
建設仮勘定	-	96,525
有形固定資産合計	8,284,850	7,961,332
無形固定資産		
借地権	950	950
営業権	433	233
ソフトウェア	62,462	62,923
ソフトウェア仮勘定	4,620	-
電話加入権	5,933	5,933
無形固定資産合計	74,399	70,040
投資その他の資産		
投資有価証券	3,555,381	3,650,109
関係会社株式	55,752	55,752
出資金	406	406
破産更生債権等	11,508	11,508
長期前払費用	77,907	63,813
繰延税金資産	541,277	501,849
会員権	46,807	41,407
その他	86,777	96,466
貸倒引当金	△25,922	△21,062
投資その他の資産合計	4,349,897	4,400,251
固定資産合計	12,709,146	12,431,623
資産合計	18,572,301	18,812,825

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年 3 月31 日)	当事業年度 (2023年 3 月31 日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	54,702	37,648
電子記録債務	267,481	305,096
買掛金	※1 1,626,504	※1 1,760,314
短期借入金	※2 1,530,000	※2 1,530,000
1年内返済予定の長期借入金	－	※2 50,000
リース債務	15,758	7,899
未払金	222,653	220,850
未払費用	614,108	459,263
未払消費税等	46,142	204,145
未払法人税等	77,429	36,194
前受金	11,002	11,286
預り金	22,283	23,187
前受収益	1,860	1,860
賞与引当金	409,000	430,000
設備関係電子記録債務	7,007	24,151
設備関係未払金	80,800	10,826
その他	31,883	15,498
流動負債合計	5,018,618	5,128,225
固定負債		
社債	※2 100,000	※2 100,000
長期借入金	※2 50,000	－
リース債務	9,655	1,755
退職給付引当金	2,890,770	2,913,019
役員退職慰労引当金	215,267	225,983
その他	10,492	10,557
固定負債合計	3,276,185	3,251,315
負債合計	8,294,803	8,379,540
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,236,114	1,236,114
資本剰余金		
資本準備金	1,049,534	1,049,534
資本剰余金合計	1,049,534	1,049,534
利益剰余金		
利益準備金	114,949	114,949
その他利益剰余金		
別途積立金	6,000,000	6,000,000
繰越利益剰余金	1,635,484	1,772,700
利益剰余金合計	7,750,433	7,887,649
自己株式	△1,162,491	△1,162,491
株主資本合計	8,873,591	9,010,807
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,403,906	1,422,476
評価・換算差額等合計	1,403,906	1,422,476
純資産合計	10,277,498	10,433,284
負債純資産合計	18,572,301	18,812,825

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
売上高	※1 15,596,425	※1 15,844,415
売上原価	※1 12,336,509	※1 12,715,030
売上総利益	3,259,915	3,129,384
販売費及び一般管理費	※1, ※2 2,913,669	※1, ※2 3,006,127
営業利益	346,245	123,257
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 78,615	※1 91,867
不動産賃貸料	※1 69,581	※1 70,413
保険解約返戻金	6,099	-
その他	16,350	21,792
営業外収益合計	170,647	184,073
営業外費用		
支払利息	9,024	8,415
不動産賃貸費用	18,138	18,242
その他	56	29
営業外費用合計	27,218	26,686
経常利益	489,674	280,644
特別利益		
固定資産売却益	※3 24,316	※3 23,113
投資有価証券売却益	6,549	1,388
受取保険金	-	33,449
助成金収入	※4 58,551	-
過年度消費税等還付額	-	14,220
特別利益合計	89,417	72,171
特別損失		
固定資産売却廃棄損	※5 5,693	※5 652
投資有価証券売却損	-	2
投資有価証券評価損	87,566	-
会員権評価損	400	-
会員権貸倒引当金繰入額	4,860	-
新型コロナウイルス感染症による損失	※6 62,329	-
製品保証費	※7 207,437	-
特別損失合計	368,286	655
税引前当期純利益	210,805	352,160
法人税、住民税及び事業税	93,444	67,618
法人税等調整額	△74,820	38,847
法人税等合計	18,624	106,466
当期純利益	192,181	245,694

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,236,114	1,049,534	1,049,534	114,949	6,000,000	1,551,781	7,666,730
当期変動額							
剰余金の配当						△108,478	△108,478
当期純利益						192,181	192,181
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	83,702	83,702
当期末残高	1,236,114	1,049,534	1,049,534	114,949	6,000,000	1,635,484	7,750,433

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△1,162,491	8,789,888	1,468,961	1,468,961	10,258,850
当期変動額					
剰余金の配当		△108,478			△108,478
当期純利益		192,181			192,181
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			△65,054	△65,054	△65,054
当期変動額合計	-	83,702	△65,054	△65,054	18,647
当期末残高	△1,162,491	8,873,591	1,403,906	1,403,906	10,277,498

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,236,114	1,049,534	1,049,534	114,949	6,000,000	1,635,484	7,750,433
当期変動額							
剰余金の配当						△108,478	△108,478
当期純利益						245,694	245,694
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	137,216	137,216
当期末残高	1,236,114	1,049,534	1,049,534	114,949	6,000,000	1,772,700	7,887,649

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△1,162,491	8,873,591	1,403,906	1,403,906	10,277,498
当期変動額					
剰余金の配当		△108,478			△108,478
当期純利益		245,694			245,694
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			18,570	18,570	18,570
当期変動額合計	-	137,216	18,570	18,570	155,786
当期末残高	△1,162,491	9,010,807	1,422,476	1,422,476	10,433,284

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品、仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこの会計処理の方法と異なっております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、一般商業印刷、包装印刷、出版印刷の、企画、デザイン、製版、印刷、製本及びこれらに関連する付帯事業を行っており、製品の販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時に収益を認識しております。

5. 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

固定資産の減損

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	8,284,850	7,961,332
無形固定資産	74,399	70,040

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

有形固定資産及び無形固定資産については、減損の兆候があると認められた場合、将来の事業計画に基づくキャッシュ・フロー等の見積りを基礎として、減損損失の処理の要否を判定しております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、計画等の見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において、有形固定資産及び無形固定資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当事業年度の財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期金銭債権	2,348千円	2,339千円
短期金銭債務	444千円	550千円

※2. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	206,221千円	189,766千円
土地	1,864,845千円	1,864,845千円
計	2,071,067千円	2,054,612千円

担保に係る債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期借入金	980,000千円	980,000千円
1年内返済予定の長期借入金	—千円	50,000千円
社債	100,000千円	100,000千円
長期借入金	50,000千円	—千円
計	1,130,000千円	1,130,000千円

※3. 国庫補助金等により貸借対照表計上額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	10,629千円	10,629千円
機械及び装置	148,333千円	148,333千円
工具、器具及び備品	27千円	27千円
土地	15,375千円	15,375千円
計	174,365千円	174,365千円

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	7,723千円	11,126千円
売上原価	1,700千円	1,796千円
販売費及び一般管理費	1,378千円	1,522千円
営業取引以外の取引高	4,800千円	4,800千円

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
運賃及び荷造費	576,350千円	603,515千円
貸倒引当金繰入額	14,093千円	6,352千円
給料及び手当	1,117,018千円	1,244,588千円
賞与引当金繰入額	139,655千円	152,486千円
退職給付費用	46,775千円	56,990千円
役員退職慰労引当金繰入額	16,882千円	10,716千円
減価償却費	44,191千円	50,822千円
おおよその割合		
販売費	77%	76%
一般管理費	23%	24%

※3. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械及び装置	24,299千円	23,113千円
車両運搬具	16千円	—千円
計	24,316千円	23,113千円

※4. 助成金収入の内容は、主に、新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金等であります。

※5. 固定資産売却廃棄損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物	1,200千円	349千円
機械及び装置	4,493千円	179千円
車両運搬具	0千円	—千円
工具、器具及び備品	0千円	124千円
計	5,693千円	652千円

※6. 新型コロナウイルス感染症による損失の内容は、当社において感染拡大の影響を受け、操業度の低下に伴い雇用調整を実施した休業補償費であります。

※7. 製品保証費の内容は、日本年金機構様の年金振込通知書の誤送付に係るやり直し等の負担額であります。

(有価証券関係)

前事業年度(2022年3月31日)

子会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。
なお、市場価格のない株式等の子会社株式の貸借対照表計上額は、次のとおりであります。

前事業年度	
子会社株式	55,752千円
計	55,752千円

当事業年度(2023年3月31日)

子会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。
なお、市場価格のない株式等の子会社株式の貸借対照表計上額は、次のとおりであります。

当事業年度	
子会社株式	55,752千円
計	55,752千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
土地減損損失	459,834千円	459,834千円
投資有価証券評価損	39,790千円	39,790千円
会員権評価損	31,332千円	25,019千円
貸倒引当金	8,842千円	9,289千円
未払社会保険料(賞与)	25,932千円	20,769千円
未払事業税	9,243千円	8,612千円
未払賞与	41,321千円	一千円
賞与引当金	122,372千円	128,656千円
退職給付引当金	864,918千円	871,575千円
役員退職慰労引当金	64,407千円	67,614千円
その他	38,261千円	31,688千円
繰延税金資産小計	1,706,258千円	1,652,849千円
評価性引当額	△599,991千円	△595,430千円
繰延税金資産合計	1,106,266千円	1,067,419千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△564,989千円	△565,570千円
繰延税金負債合計	△564,989千円	△565,570千円
繰延税金資産の純額	541,277千円	501,849千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	29.9%	—
(調 整)		
交際費・寄付金等永久に損金に算入されない項目	4.4%	—
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.3%	—
住民税均等割等	5.2%	—
評価性引当額の増減	△28.9%	—
その他	0.5%	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.8%	—

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額	当期償却額	差引当期 末残高
有形固定資産							
建物	6,754,725	59,290	6,146	6,807,869	4,437,241	152,211	2,370,627
構築物	311,085	—	—	311,085	245,310	8,221	65,775
機械及び装置	12,162,897	162,275	350,210	11,974,963	9,952,366	437,172	2,022,596
車両運搬具	294,844	10,751	—	305,596	284,584	13,246	21,012
工具、器具及び備品	585,005	10,514	6,248	589,271	496,608	27,896	92,663
土地	3,283,192	—	—	3,283,192	—	—	3,283,192
リース資産	126,308	—	62,906	63,402	54,462	14,590	8,939
建設仮勘定	—	98,556	2,031	96,525	—	—	96,525
有形固定資産計	23,518,059	341,390	427,544	23,431,905	15,470,573	653,338	7,961,332
無形固定資産							
借地権	950	—	—	950	—	—	950
営業権	1,000	—	—	1,000	766	200	233
ソフトウェア	193,319	30,847	15,224	208,942	146,018	30,385	62,923
ソフトウェア仮勘定	4,620	—	4,620	—	—	—	—
電話加入権	5,933	—	—	5,933	—	—	5,933
無形固定資産計	205,822	30,847	19,844	216,826	146,785	30,585	70,040
長期前払費用	93,458	5,477	11,484	87,451	23,638	8,660	63,813
	(61,521)	(4,622)	(10,911)	(55,232)			(55,232)
繰延資産	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置 中綴機 35,000千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置 菊全判 8 色印刷機 296,226千円

圧着機 34,000千円

3. 有形固定資産の当期償却額のうち8,381千円は不動産賃貸に係るものであり、営業外費用の不動産賃貸費用に含めて計上しております。また、長期前払費用の()内の金額は内数で、保険料の期間配分に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、償却累計額及び当期償却額の算定には含めておりません。

4. 「当期首残高」及び「当期末残高」は取得原価により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	29,553	9,984	8,491	31,046
賞与引当金	409,000	430,000	409,000	430,000
役員退職慰労引当金	215,267	10,716	—	225,983

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 — 株式売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは、次のとおりであります。 https://www.sunmesse.co.jp/
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された100株(1単元)以上保有の株主を対象に、保有株式数に応じてクオカードを贈呈いたします。 保有株式数 100株以上 500株未満 クオカード 500円分 保有株式数 500株以上 1,000株未満 クオカード 2,000円分 保有株式数 1,000株以上 クオカード 3,000円分

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を行使することができません。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第77期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日） 2022年6月28日東海財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

2022年6月28日東海財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第78期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日） 2022年8月9日東海財務局長に提出

第78期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日） 2022年11月11日東海財務局長に提出

第78期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日） 2023年2月10日東海財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2022年6月29日東海財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年6月27日

サンメッセ株式会社

取締役会 御中

監査法人 東海会計社

愛知県名古屋市中区

代表社員
業務執行社員

公認会計士 大 島 幸 一

代表社員
業務執行社員

公認会計士 牧 原 徳 充

＜財務諸表監査＞

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンメッセ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンメッセ株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

固定資産の減損	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
会社は、当連結会計年度の連結貸借対照表において、有形固定資産及び無形固定資産合わせて8,036,269千円を計上しており、総資産19,551,112千円に占める割合は41.1%である。 「重要な会計上の見積り」に記載のとおり、会社は、有形固定資産及び無形固定資産について、減損の兆候があると認められた場合、将来の事業計画に基づくキャッシュ・フロー等の見積りを基礎として、減損の要否を判定している。 当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、計画等の見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において、有形固定資産及び無形固定資産の金額に重要な影響を与える可能性があることから、固定資産の減損の妥当性を当監査法人の監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。	当監査法人は、固定資産の減損処理の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。 ・内部統制の評価に当たり、固定資産の減損損失計上の要否判定に係る内部統制の整備・運用状況の有効性を評価した。 ・各資産グループ損益を算定するにあたり、本社経費等の全社費用配賦後の営業損益が適切に各資産グループに配賦されているかどうか検討した。 ・経営者による固定資産の減損の兆候の把握において、各資産グループごとの損益状況、主要な資産の市場価格等を適切に考慮しているかどうか検討した。 ・減損の兆候があると判定された資産グループに関連する固定資産については、経営者による固定資産の減損損失の認識の判定において、割引前将来キャッシュ・フローの基礎として利用される将来計画が、実行可能で合理的なものであるかどうか検討した。 ・減損損失の認識の判定の基礎となる割引前将来キャッシュ・フローについては、取締役会で承認された次年度の予算及び中期経営計画との整合性を検証した。また、過年度における予算と実績との比較分析を実施し、将来計画の見積りの精度を評価した。 ・経営環境の著しい悪化や用途変更等の状況の有無について、経営計画の進捗状況及び蓋然性に関連する資料の閲覧を実施したほか、経営計画の達成可能性に影響するリスク要因を経営者に質問し、その合理性を評価した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サンメッセ株式会社の2023年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、サンメッセ株式会社が2023年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告

に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年6月27日

サンメッセ株式会社

取締役会 御中

監査法人 東海会計社

愛知県名古屋市中区

代表社員
業務執行社員

公認会計士 大 島 幸 一

代表社員
業務執行社員

公認会計士 牧 原 徳 充

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンメッセ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第78期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンメッセ株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

固定資産の減損

会社は、当事業年度の貸借対照表において、有形固定資産及び無形固定資産合わせて8,031,372千円を計上しており、総資産18,812,825千円に占める割合は42.7%である。監査上の主要な検討事項の内容、決定理由、及び、監査上の対応については、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（固定資産の減損）と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。